

訓蒙要言故事

赤松皆恩校正

五

183  
5  
150

館書圖京東				
五	五	八	類	和
冊	號	函	類	門

和書門

訓蒙要言

故事卷之九目錄

雜部上

丁初積善逢善

丁初如夏進爐

丁二虱麝黑香

丁二無學難聖

丁三老矣誰愆

丁四學者如禾

丁五不學不知善

丁五飽煖生淫

丁初見善如渴

丁二上智下愚

丁二入而不學

丁三少不勤勞

丁三學名光榮

丁四理照人心

丁五韋編三絕

丁六富貴生驕

丁六 未重取辱

丁七 火出於薪

丁七 其父拆新

丁八 輕柳不安

丁八 善易不論

丁九 絲不如竹

丁十 光祿屏風

丁十 有世表意

丁十 痴聾豪富

丁十 以力服人

丁六 荆棘惡之

丁七 墨以為朗

丁七 逆旅自掃

丁八 陸處無屋

丁九 如見西施

丁九 眼屬形來

丁十 紫芝眉宇

丁十 天地為鑪

丁十 勿貴賤人

丁十 聞人過失

丁十 勤無價寶

丁十 慾多傷身

丁十 積德不畏

丁十 大辯若訥

丁十 富以智力

丁十 休恨田窄

丁十 金人緘口

丁十 婦言已聽

丁十 從善如登

丁十 使口如鼻

丁十 寡言省謗

丁十 世味薄好

丁十 量人自量

丁十 好事不出門

丁十 守口如瓶

丁十 萊公六悔

丁十 易洩禍媒

丁十 膽大心小

丁十 瓜田李下

丁十 南橋北枳

丁八 抱薪救火

丁八 安不忘危

丁九 言從之便

丁十 以勝為功

丁世 禁暴戢兵

丁世 伐不踰時

丁世 法令不明

丁世 賞罰表裏

丁世 賞罰示勸懲

丁世 國安善至

丁八 千金不死

丁九 暖如布帛

丁十 甜言如蜜

丁十 好戰必亡

丁世 師克在和

丁世 中心無守

丁世 賞及牛豎

丁世 無財士不來

丁世 大事賞罰

丁世 下力敵削

丁世 縱敵患生

丁世 君命不恃

丁世 輔其淫樂

丁世 對酒當歌

丁世 猿氏及玉環

丁世 洛山木客

丁世 開元錢

丁世 祥光滿室

丁世 奉忠夏雲詩

雨傘 釐等詩

丁世 國之爪牙

丁世 順志生驕

丁世 國將生害

丁世 栢子庭詩

丁世 女子戒約

丁世 鉄船渡海

丁世 子由謫雷州

丁世 蔡君謨詩

丁世 鏡詩附燭詩

丁世 酒甌詩

草鞋

三十一 酒鍾詩

三十二 青州從事平原督郵

三十三 作酒器九品

三十四 烏程下若

三十五 飛英會

三十六 扁鵲見疾

三十七 東坡三食

三十八 足庇風雨

三十九 西施畫不可悅

四十 鬻矛盾

三十一 酒名齊物論

三十二 酒狂藥

三十三 鸚鵡盃

三十四 酒有遺諺

三十五 療公扈齊嬰

三十六 聖陽花

三十七 巢居穴處

三十八 始作饅頭

三十九 與人欲人貴

四十 富貴三患

一 宣尼不釋卷

二 恨二王無臣法

三 吐金嘔玉

四 水山

五 又生一秦

六 破釜沈船

七 蚪欲猿心

八 趙三官

九 獻鵠於楚

一 不以昏行變節

二 名傍有心有力

三 東坡詩

四 噬臍

五 迎刃而解

六 許負相薄氏

七 陳平謀賊

八 畫蛇添足

訓蒙要言故事卷之九

雜部

要言

明心寶鑑卷上繼善篇曰徐神翁曰積善逢善積惡逢惡仔細思量天地不錯善有善報惡有惡報若還不報時辰未到平生作善天加善若是愚頑受禍殃善惡到頭終有報高飛遠走也難藏

テ不圖シタル祥ニ逢コトアリ。惡事ヲ積ハ思ハザル禍カ  
アルモノ也。子ンコロニ思察スレバ天地ノアヤマルコト

ハ芥子程モ無之。善事ニテモ惡事ニテモ報ハザルハ。其時節ノイマダ到ラザル故也。愚頑トヲロカニカタクナルモノハ殃ヲ受ルコト必セリ。惡事ヲレタルモノ。人ハ是ヲレラザレドモ。天ユルサズ高ク飛アガリ遠ク走リテモ。カクル、處ナキナリ

又云太公曰見善如渴聞惡如聾何ナリトモ善事ヲ

見テハ。渴シタル時ニ水ヲ見ルガ如ク思ヒ。何ニテモ惡事ヲ人ノ咄スヲ聞クトキハ驚ニナリタル如ク。心ニ入レズ聞クコトヲセザルナリ

王充論衡云作無益之能納無補之說猶如夏進爐以冬奏扇亦徒耳何ノ益モナキ藝能ヲナ

シ。或ハ用ニモク、ス咄ヲシテ。アタラ光。陰ヲ費スモノハ。冬ノ扇夏ノ圍爐ナリ

顏氏家訓曰上智不教而成下愚雖教無益中庸之人不教不知是ハ上智ノ生レツキノ人ハ。教ヘザレトモ能ク

一四

知ナリ。下愚トテ。トツトヲロカナル生レツキノ者ハ。教ヘテモ不知。中オノ生レツキノ者ハ。教レバ能知リ。教ヘザレハ知ラザルナリ。邵康節子孫ヲ誡メテ曰ク。上品之人不教而善。中品之人教而後善。下品之人教亦不善。不教而善。非聖而何。教而後善。非賢而何。教亦不善。非愚而何。ト云フモ同シ心ナリ

文選曰虱處頭而黑麝食栢而香虱ハ頭ニ處ニヨツテ色黒シ。麝香ハ栢樹ヲ食ニ依テ香シキ也。人モ亦如斯。君子ニ交レバ君子トナリ。小人ニ交レバ小人トナル。交

リ處ル所ヲ擇ムベキコト也孔子モ  
里ハ仁アルヲ美トストノ玉ヘリ

又曰人而不學如涉川無梁若凌虛失戩

人トシテ道ヲ學ザルハ川ヲ涉ルニ橋ノ無ガ如ク虛空ヲ飛  
シノグニ翼ノ無ガ如ク橋ナクンバ川ヲワタルベカラズ

翼ナクンバ虚空ヲ飛ベカラズ道ヲ  
學ビザル者ハ人タルベカラズトナリ

說苑曰干將雖利不得人力不能自斷人

才雖高不務學問不能致聖

干將ハ古ノ鍛冶ノ名也干將ガ作  
レル劍ハ天下ノ寶也能ク利トイヘドモ人ノ力ヲ得ザ  
レハ自ラ切ルコト不能也人ノ才智スグレテ高明ナルモ  
學問ヲ務メザレバ聖人トナルコトアタハザルナリ

居家必用曰少不勤勞老必艱辛少能服

勞老必安逸

少壯ナル時安逸ニシテツトメ苦勞セザ  
レバ年老テ後カナラズ艱難辛苦ス少壯  
ナル時艱難ヲシテ苦勞アレバ老テ後安逸ナリ學問モ亦  
如此トナリサレバ最勝寺殿ノ哥ニエヤウニテヲサナソ  
ダチヲスル人ハ老テ  
必ズ貧苦トゾナル

古文前集朱文公勸學文曰勿謂今日不學

有來日勿謂今年不學有來年日月逝矣

歲不延嗚呼老矣是誰之愆

朱文公ハ朱子名ハ熹字ハ元晦又  
仲晦トモ云フ宋ノ代ノ大儒也文公ハヲクリ名ナリ是朱  
子ノ人ニ學ラスメラレシ文也學問ヲスル者ハ一日モ



怠ルベカラズ。今日不學トモ苦シカラジ明日一ナブヘシト油断スベカラズ。今年不學トモ苦シカラジ。來年學ブベシト云ヘカラズ。左。右。スルウチ二月日ハ移リユク。如此怠レバトテ歳モ不延。イタヅラ二年老テ後悔スレドモカヘラズ。是誰カ愆ソヤ少壯ノ時學ニ怠リヌル故也

二四

寶鑑勸學篇曰家若貧不可因貧而廢學家若富不可因富而怠學貧若勤學可以立身富而勤學名乃光榮惟見學者而達不見學者而無成學者乃身之寶學者乃世之珍是故學者乃為君子不學者則為

小人後之學者各宜勉之

コレハ家モシ貧クトモ貧キニ因テ學問ヲ

廢ベカラズ。家若富トモ富ニ因テ學問ヲ怠ルベカラズ。貧フシテモ學問ヲ勤ムレバ身ヲ立テ德ニ入ル。富テ學問ヲ勤ムレバ。弥ク榮ヘカ、ヤク。學問ヲスル者ハ名モ聞ヘ望ミモ達スルコトヲ見ル。學問ヲスル者ノ德ノ成就セヌト云コトヲ不見。學ハ乃チ身ノ寶ナリ。又世上ノ珍也。故ニマナブ者ハ君子トナル。學ビザル者ハ小人トナルナリ。シカレハ後ノ學者各クツトメハゲマズベシ

又曰徽宗皇帝勸學學也好不學也好學者如禾如稻不學者如蒿如草如禾如稻今國之精糧世之大寶如蒿如草今耕者

憎嫌鋤者煩惱他日面牆悔之已老學問者

ガヨキカ學問ヲセザル者ガヨキカ是ヲタトヘテ云フト  
キハ學ブ者ハ私ノ如ク縮ノ如シ。精ゲタル糧ノ國ノ用ヲ  
達スルガ如ク世ノ大ナル寶也。學ビザルモノハ萬ノヨモ  
ギノ如ク草ノシゲルガ如シ。耕ス者ハ田地ノサマタケナ  
ルユヘニ憎嫌ヒ鋤モノハワヅラハシキトイヤガ  
也。ワカキ時學バザレバ道理ヲシルニクタクシテ面牆ト  
テカベニ向ヒタルガ如ク萬事ノ理ヲ見ルコトアタハズ  
コレヲ後悔シテカシラカケドモ年スデニ老ハテヌレ  
バ詮ナ  
キ也

又曰直言訣曰造燭求明讀書求理明以  
照暗室理以照人心是ハ燭ヲツクリテハ明カニ  
物ヲ照サンコトヲ求ム書ヲ

讀ハ道理ヲアキラメンコトヲ求ム燭ヲタテ、暗室ヲ見  
ルトキハ物コトぐクアラハル、ナリ。道理ヲアキラメヌ  
レバ愚ナル心モサトク  
ナリ萬事ニ通ズル也

禮記曰雖有嘉肴弗食不知其旨雖有至  
道不學不知其善ヨキ肴アリトイヘドモ食セザレ  
ハ旨キヲ不知至道アリトイヘ

(三)

抱朴子曰知藥理病不知學理身世人皆藥  
ノ病ヲ才

サムルコトヲシレドモ學問ノ  
身ヲ治ムルコトヲ知ラザル也

說苑曰周公上聖而日讀百篇仲尼天縱

聖而韋編三絶有子惡臥自碎掌蘇生怨

睡親針其股。周公ハ文王ノ子武王ノ弟也。生レナガラ

玉ヘリ。仲尼ハ孔子ヲ云是ハ天ヨリユルセル聖人ニテマシマ

セドモ周易ヲ讀玉ヒテ。韋編三絶ト云テ竹簡ヲアミタル

韋ガ三タビキレタリ。古ヘハ竹ニ文字ヲホリツケテ。韋ニ

テ編タル故ニ。韋編ト云ナリ。周公孔子ノ如キ聖人スラ如

此書ヲ讀デ學フコトヲ專ラニシ玉ヘリ。況ヤ常人ヲヤ有

子ハ有若孔子ノ弟子ナリ。學問シテ睡ノ出ルヲ惡ンデ。掌

ヲ破リテ睡ヲサマセリ。蘇生ハ蘇秦ト云者ナリ。周ノ代ノ

末戰國ノ時ノ辯舌ノヨキ者ナリ。學問スル時ニ。睡ノ出ル

ヲ怨ミテ。自ラ股ニ針ヲサシテ睡ヲサマス。古ノ人ハ如此

學問ニ志ヲ深クイレラレシニ常人何ノ怠レルヤ

事林廣記曰。飽煖生淫欲。飢寒發善心。

物食

ヲ飽マデ食ヒ。衣服ヲ暖ニキテ。安逸ナレバ榮耀ニホコリ

テ淫欲生ズル也。食物不足シテ飢ニ及ビ。衣服不足シテ寒

ケレバ艱難ニセマリテ善心ヲコル也。沃土之民不材。淫也。

瘠土之民無不嚮義。勞也。ト云モ此意也。富貴ナレバ衣食ニ

チ足テ心トロケル故ニ。無能也。無能ナル故ニ。惡心生ズル

也。貧賤ナレバ衣食不足シテ勞スル故ニ。義理ニムカフ也。

義理ニムカフ故ニ。善心ヲ生ズル也。飽

煖ナランヨリ。飢寒ナルガマシナリ

寶鑑曰。富貴生驕奢。驕奢生淫亂。淫亂生

貧賤。貧賤生勤儉。勤儉生富貴。

人富貴ナレ

バ放逸情慢

ニシテ驕リ奢ル。驕レバ心トロケテ。淫亂ニナル。淫亂ナレ

バ財ヲ用盡シテ。貧賤ニナル。素ヨリ貧賤ナレバ。已レガ職

事ヲ勤メテ用ヲ儉フス。職事ヲ勤メ

テ用ヲ儉フスレバ。富貴ニナルナリ

六

川

家

要

書

卷

九

景行錄曰未自重者取辱不自畏者招禍不自滿者受益不自是者博聞

ルモノハ必ズ人ニ侮ラレテ辱ヲトル也。ミツカラ事毎ニツ、シミラセズシテ畏レザルモノハ禍ヲ招ク也。ミツカラ我が不足コトヲ思テ滿リトセザル者ハ日々ニ益ヲ受ルナリ。ミツカラ我レヲ是トセズシテ好テ人ノ言ヲ用ルモノハ聞コトヒロシ。太驟人情己ヲ是トシテ人ヲ非トス。是ニ依テ聞職狹シテ弊ヒ生ズルナリ

心學蠹見曰道有荆棘類能惡之心有荆棘類不知惡艾荆棘於道則豫樟茂艾荆棘於心則仁義存

我心ニ荆棘アルトキハニクミキラフ事ヲ知ラス。道ノ荆棘ヲカルトキハ豫樟ト云ヨキ木生ス。心ノ荆棘ヲカルトキハ仁義ノ本心ウシナハス。孟子舍其梧楨養其楨棘則為賤場師ト云ヘル心モコレナリ

又云火出於薪自薪而炭自炭而火自火而灰灰可以為薪乎古今之火如彼而卒莫能息必以一氣而傳乎

コトナクシテ天地ノ間ニアリ。其アラハレツクハジメハ薪ナリ薪ヨリシテ炭炭ヨリシテ火ノ熾トナリ。是ヨリシテ灰トナル。灰ハフタ、ヒ薪トナラズ。火ハ又モトノ如ク天地ノ間ニアリ。是一年ノ陽古今ノ間ニツタハレルモノナリ

又云詩曰墨以為朗狐裘而蒼小人之狀

也故明主必慎之矣 コレ言ハ墨ハクロキモノナリ。狐裘ハ色黄ナリ。クロキヲ

白トシ。黄ヲ青トスルハ。是ヲ非ト云ヒ。非ヲ是ト云ヒ。善ヲ惡ト云ヒ。惡ヲ善ト云ヒ。賢ヲ愚ト云ヒ。愚ヲ賢ト云フタト

ヘナリ。コレ小人ノ情狀也。故ニ明主ハ小人ノ讒言ヲスルコトヲツ、シミオソル、ナリ

左傳云古人有言曰其父析薪其子弗克

負荷 父薪ヲキリテヲキタレドモ。其子。ラヒニナヒテ。トリ

カヘルコトアタハズ。是ハ子トノ父ノ跡ヲツグコト

アタハザル者ヲ云ナリ。此句ヲ以テ。オヤノアト。師匠ノアトヲヨク傳フルヲ荷負ト云ナリ

世説云郭林宗每行宿逆旅輒躬自灑掃

及明去後人至見之曰此必郭有道昨宿

處也 逆旅ハ。タビヤヲ云有道トハ林宗ヲ云ナリ。カリソメ

ニ一夜宿ヲカル處ニテモ。ミツカラ奇麗ニハキキヨ

メ。水ウチソ、ギテ居テ夜ガアクレバ。スナハ千去ルナリ。其アトヘ入來リテ。掃除ヲ見テ。是ハ定テ昨日郭林宗ガヤ

ドリシナラント知ルナリ。暫ク宿ル處サへ清潔ヲ好ム。況ヤ心ハ寸ノ間モ汚サミルコト可知

又云皇甫士安曰貴城陽太守而輕梁柳

非心所安 皇甫謐字士安ト云。梁柳トハ遠キ親類ニテ。

ワカキ時ヨリトモナヘリ。梁柳ガ尋來ラル

送ルコトナシ。後ニ梁柳ツカヘテ。城陽ノ太守トナル人々皆ナ驢シテ送ル。皇甫士安ハ送ラズ。人アヤシミテコレヲ問ヘバ。士安ハジメヨリ慙慙ニモアシラハデ。今送リナ

(五)

バ。梁柳ガ太守トナリタルヲ貴ヒテ。其入トナリヲ賤ミタルヤウナレバ。是我ガ本意ニ非トテ送ラザリシ也。

又云。張融曰。陸處無屋。舟居非水。齊ノ張融

アラズ。カリニ小舟ヲ岸ノ上ニヒキアゲテ住居シケリ。帝ノ曰ク。汝イツクニ住ケルヤト問玉ヘバ。陸地ニ居テハ家ナシ。舟ニノリテハ水ニアラズトコタヘケリ。

又云。管公明曰。善易者不論易。何平叔含

笑贊之曰。可謂要言不煩。煉ストイヘドモ。イマ

ダサトラザル事九ツアリ。管公明ニ問ケレバ。皆ヨク道理ヲコトハリキカセタリ。シカレトモ周易ノ中ノ語ヲイハズ。鄧玄茂其座ニアリテ。易ヲ論スレトモ。易ノ語ヲイハズハイカニト云ケレバ。管公明ヨク易ヲ知モノハ易ヲ云ベ

シト答ヘケルヲ。何平叔ホゾテ。肝要ノコトバハワツラハシカラズト云ヘリ。

又云。郭洗馬入洛。聽伎人歌言佳。石季倫

問其曲。郭云不知。季倫笑曰。卿不識曲。那

得言佳。郭答曰。譬如見西施。何必識姓名。

然後知美。郭洗馬ハ郭詡ナリ。妓女ノ音樂ヲ聞テヨシト云ケレバ。石季倫イツレノ曲ナリシゾト

問トキニ。シラスト答フ。石季倫笑テ曰ク。曲ノ名ヲタニシラズノ。ヨシト云ハイカニト云ケレバ。郭洗馬カ答テ云ヤウハ。西施ト云ヘル美人ヲ見バ。其名ヲシラズトモ美女ナルコトヲ知ベシト云ケリ。

又云。桓宣武嘗問孟萬年。聽伎絲不如竹。

竹不如肉何也。孟答曰：漸近自然。一坐咨。

嗟。晋ノ桓温ヲ宣武ト云也。萬年ハ孟嘉ナリ。絲ハ琵琶琴ノ類ヒヲ云。竹ハ笙笛ノ類ヒヲ云。肉ハ人ノウタフヲ云。歌

ハ人ノ口ヨリ出ルユヘニ肉ト云也。絲ヲカケテヒク音ハ竹ニシカズ。竹ヲフク音ハ人ノ歌ニシカズト云ハ何ユヘ

ゾト問ヘハ。孟萬年答テ曰ク。絲竹ハ人ノツクリテスルモノナリ。歌ハ自然ニ口ヨリ出ルユヘナリト云ヘリ。

又云謝安曰：眼往屬萬形。萬形來入眼不

目ニ萬ノモノヲ見ルハ。眼ユイテ物ニツクカ。物キクリテ眼ニ入ルカ。月カゲノ水ニ移ルハ。水ノボリテ月ヲヒタス

カ。月クダリテ水ニ入ルカ。月モクダラズ水モボラズ。シカレバ眼ニ物ヲミルコトノミナラズ。心ノ感應スルコト

又此ノ如シ

又云王光祿如屏風。屈曲從俗。能蔽風露。

南史ニ王遠字ハ景舒。ツカヘテ光祿勳ニイタルユヘニ。王光祿ト云。我カ身ヲマダテ。時ニシタガフユヘニ。屏風ノ如

シト云。サレトモ風ヲフセグコトク功ハアルナリ。世俗ノ云ヒナラハシニ。屏風ト高ハ直ニタテラヌト云類ナリ。

又云房太尉言見紫芝。眉宇使人名利之

心却盡。元徳秀カ字ヲ紫芝ト云。眉宇ハ眉ノアヒダナリ。此人ノ面ヲミレバ。名利ノ心モナクナリテイサ

ギヨキト譽タリ。紫芝ハスナホニシテ無欲ナル男ナンバナリ。人ノ顔色ヲホメテ芝眉ト云フモ。此本文ヨリ出タリ。

又云宋景文云。左太冲詩。振衣千仞岡。濯

足萬里流。使人飄飄有世表意。景文カ云コ

仲ガ衣ヲ千仞ホトモ。タカキ山ノウヘニフルヒ。足ヲ萬里  
バカリモ長キ流ニアラフト云詩ヲヨメバ。我ガ意モ雲ニ  
ノリ。天ニノボルヤウニテ。高上ニナリテ。塵世ノ表ニ超  
スル意地スルナリ。真ノ大丈夫タル者ハ此ノ氣分アルベ  
キコト  
ナリ

賈誼鵬鳥賦云。天地爲鑪兮。造化爲工。陰

陽爲炭。萬物爲銅。天地ノアヒダニ萬物ノ生ズルハ。  
鍛冶ノ物ヲ鑄出スガコトニシ。ナニ

ヲツクリ出サシモノ。コレ銀冶ノマナリ。万物變化アレバ。  
人トナランモ。鳥獸トナランモ。草木トナランモ。皆自然ノ  
造化ニマカスルナリ。造化ハ萬物ヲツクル主宰ナリ。佛法  
ニ。地水火風和合シテ。カリニ人トナルトイヘルモ是ナリ

明心寶鑑順命篇曰。列子曰。痴聾瘖瘂家

(七)

豪富智慧聰明却受貧。痴ハ愚痴トテ。ナルホド。ヲ  
リ。聾ハツンボ。瘖瘂ハヲシナリ。是等ハ其家富貴ナル者多  
キ也。智恵有テ聰明トサトクカシコキ者。カヘツテ一生貧  
賤ニシテクラス者アリ。是皆  
天命ナルコトヲ知ベシ

又正己篇 第五 太公曰。勿以貴己而賤人。勿以自

大而侘小。勿以恃勇而輕敵。我身ヲフキテ貴  
シト思ヒテ。人ヲ

賤ムル時ハ必手ヲトルコトアルモノナリ。己ヲ大キナリ  
トシテ人ヲ小キナリトスルコトアルベカラズ。タトヒ我  
勇ガアリトモ。ソレヲ輕ミテ敵アカロシテアナドルベカ  
ラズ。必ズ破ルモノナリ。

又曰。孟子曰。以力服人者。非心服也。以德



服人者中心悦而誠服也

是ハ威勢アル人ガラ以テ人ヲ推ツケテシ

タガヘ服セシムルハ。一旦其ノ威勢ニラソレテツキタガフトイヘドモ。心ハ少モ服セヌ也。徳アリテ人ヲ服スルモ

ノハ。眞實ニヨロコビテシタガヒ服スル故ニ。変ズルコトナキ也

又曰馬援曰聞人過失如聞父母之名耳

可得聞口不可得言也 他ノ人來テ人ノ過失アルコトヲ言トキハ。ワガ父母

ノ名ヲ聞コトクスヘシ。耳ニハキハイレテモ。口ニハイヒ出スベカラズ。是レ君子ノ心ナリ。小人ハ人ノアヤマチアルヲ聞テハ。喜デ

人ニ云解也

又曰太公曰勤爲無價之寶慎是護身之

符

人ハタバソレクノ勤ムベキ事ヲ。ワコタラザルハ量モ無キ價ノ寶ナリ。物ゴトヲ慎ムハ。是ワガ身ヲマモルノ

神符ナリ。身ノマモリトナルモノ也。必ズ禍ニアハザルナリ。

又曰。景行。寡言則省謗。寡慾則保身

評ニ出シテ言

コトスクナキ時ハ人ノ謗ヲウクルコトナキ也。言語多ケレバ。人ノ恨ミトガムルコトヲモ言ユヘニソシリヲ得ル

ナリ。寡慾ハ色ヲ好ムコトナク。飲食ヲタシマズ。物ヲムサボリホシカル心スクナキヲ云。コンハ我が身ヲタモチテ

病ナキ也

又云。老子曰。慾多傷身。財多累身

人ノ慾多キ者ハ。カ

ナラズ身ヲソコナヒ病ヲマウクルナリ。財寶モ多クタクハフレバ。身ノワヅラヒトナル也

又曰胡文定公曰。人須是一切世味淡薄。方好。不要有富貴相。利不苟貪。終禍少。事能常忍。得身安。

以ノ世間ヲワタルニ。一切ノ事。衣服ヲザルヲ好トスルナリ。富貴榮耀ナルコトヲ願ヒ求ムベカラズ。利欲ヲハナレテムサボル心ナケレバ禍ニアフコトスクナリ。結構華麗ナルハ禍ノ基也。

又曰劉會曰。積穀帛者不憂饑寒。積道德者不畏凶邪。

米穀ヲ澤山ニタクハ。衣服ヲ持タル者ハ。凶邪トテアシキ禍ニキ也。其ゴトクニ道德ヲ積タル者ハ。凶邪トテアシキ禍ニアハンコトヲオソレザルナリ。

又曰太公曰。欲量他人。先須自量。傷人之語。還是自傷。含血噴人。先汚自口。

他人ノ非ニト欲セバ。先ワガ身ノ上ヲカヘリミテ量ルベシ。我身正キ時ハ。他人ノ非ヲウケザルベシ。人悪キコトヲイヒテ人ヲソコナフハ。カヘツテ我身ヲヤブル也。口ニ血ヲ含デ人ニ吐カクレバ。先我口ヲムサク汚スガゴトシ。

又曰老子曰。大辯若拙。澄心清淨。可以安神。讒口多言。自亡其身。

イタリテ辯舌ノスクレタテ物ヲ工イハヌヤウナル也。スグレテ大功ヲタクツル者ハ。カヘツテ拙キ者ノ如クナル也。心イサギヨク靜ニシテ。其神ヲヤスンズベシ。人ノ事ヲソシリ。サカシラニシテ言ヲ吐キ。口ヲ用ルモノハ。禍ヲ生シテ身ヲモ亡スナリ。

詩經小旻篇曰不敢暴虎戰戰兢兢如臨

深淵如履薄冰不敢馮河人知其一莫知

其他言ハ世人凡庸底ハ遠慮ヲ回スコトナラズ虎ヲ暴ニ

シテハ身流レテ命ヲ失フ如キノ近患ハ解ユレドモ國ヲ

喪ヒ家ヲ亡ス禍ノ重キコト目前ニ未ダ形レザレバ慎ヲ

厚クシテ兼テ憂トスルコトヲ不知終ニ國家ヲ喪フニ至

ル此ヲ懼レ戒ムルコト深淵ノ邊ニ臨ンテ墜ンコトヲ思

フガ如ク薄氷ヲ履テハ水底ニ墜ランコトヲ氣遣フガ如

クセヨトナリ戰戰恐也兢兢戒也

北夢瑣言卷六曰好事不出門惡事行千

里好事ハ門内ヨリ外ニ彰レガクシ惡事ハ早ク千里ノ遠

事ハ少シニテモ恐レテ可戒ト也

寶鑑存心篇第七擊壤詩云富貴如將智カ

求仲尼年少合封侯世人不解青天意空

使身心半夜愁人間ノ富貴貧賤ハ天命ニシテ秘ナ

又曰朱文公曰守口如瓶防意如城是敬齋

又曰朱文公曰守口如瓶防意如城是敬齋

加四

箴ニアル語ナリ。口ハ言ヲ發スルノ處ナリ。ムザトモノヲ  
イビ出サバ、ルヤウニツ、シムベシ。一タビ言フトキハ、モ  
ハヤ人ノ耳ニ止ルユヘニ。トリカヘスコトナラヌ也。瓶ハ  
カメモタイトヨム。水ヲ入ル道具ナリ。瓶ニ水ヲ一盃入テ  
持アリクトキハカタムキコボルベキカトアブナク思ヒ  
テ大事ニカクナリ。若シ水コボレヌレバ、其水フタ、ビト  
リモドスコトナラヌ也。其如クニ口ヨリ言フコトヲモツ、  
シムベシト也。防意如城トハ人ノ心ノ動クヲ意ト云。此ノ  
意ハ誠ヲ發シガタクイツハリヲ生ジヤスキ故ニ。此意ヲ  
マモリフセグ事敵ノ來テ城ヲ攻ルヲ防グ如クニツ、シ  
ミテ守ルナリ。意スデニ誠アリテ心正キ也。意ノミタリニ  
ハセテ邪路ニユキヤスキヲ守リ防グベシト也。

又曰景行錄云。休恨眼前田地空。退後一  
歩自然寬世無百歲人。枉作千年計兒孫。

自有兒孫福莫把兒孫作馬牛

言ハ眼前ニ  
田地ナドノ

スクナクテ。ナリハヒノウスク。或ハ知行ナドノ小分ナル  
ヲ恨ムルコトナカレ。面々ノ分際相應ニスグレバ、不足ナ  
ルコトハナキモノ也。退後ハ。或ハ官職奉祿ヲ辭シ退キ。或  
ハ子ニ譲リテ隱居スルヲ云。管様ニナリテハ少シノ田地  
ニテモ事足ルモノナリ。世人百歳一デハイキヌモノ也。シ  
カルニ金銀ヲ積タクハ。田地ヲ買モトメテ千年ノ計ヲ  
ナシ。人ヲモメグマズ。ツカヒタキコトニモツカハズ。子孫  
ニ遺サンコトヲ思フハ。ヲロカナルコトナリ。子孫ユヅリ  
ノ金銀ヲ得タリトモ。ムサト遺ヒステナバ。却テ害ナルベ  
シ。タゞ子孫ニハ道ヲオシヘ。藝能ヲ教ヘテ。牛馬ト同シカ  
ラヌヤウニ。教ラ  
ノコスベキ也。

又曰寇萊公六悔銘。官行私曲。失時悔富。

類

不儉用貧時悔勢不少惜過時悔見事不  
 學用時悔醉後狂言醒時悔安不將息病  
 時悔寇萊公ノ六悔トテ六ツノ悔ミナリ官ニアリテ正道ナ  
 ラズワタクシノ如曲トワダカマシクマカリタル事  
 ラシテ官位ヲ止ラレ俸祿ヲ失フ時カナラス後悔スルナ  
 リ富テ賤多キ時ニムサトツカヒ費シ儉約ヲ守ラザレバ  
 貧シクナリテ悔ム也勢カ強キ時身ヲ惜ムコトナク妄ニ  
 ツカラカス時ハ衰ヘテ後ニクユルナリ事ノ道理ヲ學シ  
 習ハサル時ハ其事ヲ用ル時ニ悔ル也酒ニイタク酔テ物  
 狂ハシクワケモナキ言ヲ吐テラシテ醒テ後ニ悔ル也平  
 安ナルトキ心ヲ靜ニシ身ヲ安クシテ  
 養生セザレバ病テ後ニクユルナリ

又曰孔子觀周入后稷之廟有金人焉二

緘其口而銘其背皆曰古之慎言人也戒  
 之哉無多言多敗孔子周ニ入テ后稷ノ廟ヲ觀玉ベ  
 ハ人形アリテ其口ヲ三ベンマデ  
 繼トヂタルアリ其背ノ銘ヲ見ルニ古ノ言ヲ慎ム人ナリ  
 孔子弟予タチニ見セ玉ヒテ戒テ曰ク慎ンデ多言ベカラ  
 ズ多言ナレバ身ヲ敗リ  
 害ニアフモノゾト也

臣軌曰言易洩者召禍之媒也事不慎者  
 取敗之道也多言ニシテ人ニ言語ヲ洩セバ展轉シテ  
 接葉ガサキ禍トナル也或ハ一人ハ聞テ  
 悦ビ一人ハ不悦ナルナリ或ハ軍陣ナドニテ敵ニ言ヲモ  
 ラストキハ此方ノヤブレトナル也政事ヲ行ニ慎マザレ  
 バ國家ノ敗トナル也

事林廣記曰。婦女言不可聽。婢僕言不可

聽。婦人女子ハ大方心狹クテ見識イヤシキ者也。故ニ言

フコト道理ニ不合。夫ノ恥ヲモカヘリミズ。我カ恥ヲモ

不。思。我、ナルコトヲ言者ナリ。婢ハ下女フ云。僕ハ下男ヲ

云。何レモワレニ使ハル、モノ也。婢僕、モ無智ニシテ道理

ニカチハザルコトヲ云モノ也。故ニ聞ベカラズ。シカレド

モ婦人婢僕ノ言ニテモ。理ニ合ヒタルコトハ取用ユベシ。

唐書方技傳孫思邈曰。膽欲大而心欲小。

智欲圓而行欲方。言ハ膽ヲバフトクスベシト也。千

モ畏ズ。臆也。又云。志ノ大ナル心ナリ。心ハホソクスベシ

ト也。心ノ小キハモノヲ畏レ。慎ミ心ヲ恣ニモタサジト也。

智ハ圓ナランコトヲホツストハ、マロキ物ハヨク運テ滯

ホルコトナシ。智ノ萬ニ通達シテ滯ラザル義ナリ。行ハ方

ナランコトヲホツストハ、方ハ方正ノ義也。四方ナル物ハ

平生ニノ流轉セズ。行ハ能身ニ執守リテ。移変セザルヲ善

トス。正シキ行跡也。○世行ナハ

ル、千金方ハ此人ノ作ナリ

國語。語曰。從善如登。從惡如崩。

言ハ善事ニ從コトハ高キ所へ登ルガゴトクニシテ。甚ダ成リ難シ。惡事ニ從フコ

トハ。ヒキ、所へ墜ルガ如クニ。甚タ易シ。惡ニハ陷リ易ナリト

文選曰。瓜田不納履。李下不正冠。言ハ瓜田ノホトリ



川榮重言故事 卷九

孝經註曰使口如鼻終身勿事

鼻ハモノイハザル者ナ

レバ。口ヲ守ルコト鼻ノモノイハザルガ如ク。ムザト言ゲルヲヨシトスト也カヤウニ口ヲ慎ムトキンバ。我身一代禩ナク無事ニ通ルベシト也

晏子春秋曰江南橘生江北為枳水土之

異也

揚州江ヨリ南ヲ江南ト云。江北ト云ナリ。江南ニ生ズル橘ヲ江北ニ移シ植ルトキンバ枳トナル也。是

ハ土地ニヨリテ水脈土氣ノ替ル故ナリ。サレバ非情ノ草木ダニモ所ニヨリテ其性ヲ変ス。マシテ人モ其如ク悪キ所ノ風俗ニ隨ヘバ善人モヲノヅカラ風俗悪クナリテ悪キ人トナリ又善キ所ノ風俗ニ隨ヘバ惡人モヲノヅカラ其風俗ニナリテ心ヲ改ル故ニ善人トナルベシト也。○此超リハ皆シ戰國ノ時齊ノ景公宰相ノ晏子ヲ荆ト云國へ

使者ニ遣ハサレケル時。荆ノ國ノ王晏子カ元來ハ利根ニテ常話ノヨキコトヲ聞及ヒ玉ヒ。イカニモシテ恥シノ際口ヲ見ヘヲナス。荆王對面シ玉ヒケル所ニ囚人ヲ擲テ來リテ見ヘヲナス。荆王是ヲ見テ其囚人ハ何國ノ者ニテ御前ニ引スヘタリ。荆王是ヲ見テ其囚人ハ何國ノ者ニケルハ。此囚人ハ齊ノ國ノ者ナルガ。此國へ來リテ盜ヲ仕テ。イカナル答ヲ仕リタルゾト問玉ヒシニ。繩取ノ者申上リタル答ニヨリ。如是ト申シ上ケル時。荆王晏子ニ命ヒテ齊ノ國ニハ元來盜人多クアリヤト問玉ヒケレバ。晏子トリアヘズ答ヘケルハ。江南橘生江北為枳水土之異也。此ノコトクハ。江南ノ橘ヲ取テ江北へ持行植時ハ必ズ枳トナルベシ。齊ノ國ニテハ盜ヲセザリケレドモ。今荆ノ國へマイリテ地ニヨリテ盜人トナリタルナルベシト申ケレバ。荆王道理ニ諾ラレ反テ耻ヲカキ給ヒシトナリ。晏子春秋ノ

戰國策云魏孫臣曰抱薪救火也薪不盡

則火不止コレハ悪ヲスル心ヲ以テ惡人ニ交ルトキハ其惡イヨク長スル也是レ薪ヲイグイテ火ノ

モユルヲフセグニコトナラザル也薪ツキサレハ火ヤマヌナリ

尉繚子將理篇曰今世諺曰千金不死百

金不刑世ノ諺ハ其時ノ世話也此ハ訟ヲ聞モノ公道ナラズレテ欲心ヲカク公事ニ依怙賈スルヲ

云ナリ千金ヲ持タル者ハ死罪ヲモノカル也百金ヲ持タルモノモ刑罰ニアハヌゾト云ナリ

易繫辭下曰安不忘危存不忘亡是以身

安而國家可保也此ノ心ハ天下安全ナリトモ危キニ逢ガクツ、シミホシ

イマ、ニセザレト也國家存スレドモ亡ルコトヲ忘レス萬事ニ慎ミラ加フルトキハ其身モオスクシテ國家ヲ保

ツベキ也前漢書曰平不肆險安不忘危矣○禮記曰君子居安如危小人居危如安ト云ヘルモ語ハ替レドモ心ハ同ジ

荀子云與人善言暖如布帛傷人之言深

如矛戟人ニ善言ヲ以テ交ルトキハアタ、カナルコト布帛ヲ着タルガ如シ其ノ心快キナリ人ヲイタ

メヤブル語ヲ聞クトキハ矛戟ノホコヲ以テツクガ如クナル也

戰國策七上曰張儀說魏王曰天下之游

士莫不日夜搯腕瞋目切齒以言從之便

以說人主人主覽其辭牽其說惡得無眩



哉。臣聞積羽沈舟，群輕折軸，衆口鑠金，故願大王之熟計之也。  
張儀ハ戰國ノ謀客ナリ。蘇秦ト師ヲ同フ。學ベリ。アル時

魏王ニ説テ曰ク。天下ノ國々ヘ來ル辨舌ノ游士ドモ腕マ  
クリヲシ。目ヲイカラシ。齒ガミヲシテ合従ノ便ヲ人主ニ  
説者ヲビタシ。人主モコレニヨツテ心ヲマドハシテ其  
説ニシタガフ。臣聞積羽沈舟トハ。積ホドカルキモノハナ  
ケレドモ。羽ヲ夥シク積アゲタルトキニハ。舟ヲモ沈ムル  
也。羣輕折軸トハ。何ホド輕キ物ニテモ多ク積タルトキハ。  
車モ軸ヲ折ル也。衆口鑠金トハ。モロクノ人。口ヲソロヘテ  
云トキハ。タトヒ金鐵ノカタキモノトイヘドモ。消シ鑠ト  
ナリ。江淹書。積毀銷金。積讒磨骨ト云フモ同ジ意ナリ。ガヤ  
ウニ辨舌ノヨキ游士トモガ。ムラガリ集ソテ説コトニハ。  
人主モマドヒ玉ハンホドニ。大王コレヲウラクハカリ玉  
ヒテ。衆口ニモ迷ヒ玉フベカラズト也。



寶鑑言語篇 第十 離騷經云。甜言如蜜，惡

語如刀，人不以多言爲善，犬不以善吠爲

良，刀瘡易好，惡語難消，利人之言，暖如絲

絮，傷人之語，利如荊棘，一言半句，重值千

金，一語傷人，痛如刀割，口是傷人，斧言是

割舌，刀閉口，深藏舌，安身處處牢。  
甜言トハ  
アマキ詞。

コ、ニテハ人ノ喜ブ言ヲ云ゾレハ人ニ是ヲ聞テ蜜ヨリモ  
アマキ也。惡語ハ人ヲ罵詈ル詞ハ。刀ニテ身ヲ傷ルカ如ク  
ナル也。人ハ多ク物ヲイフヲ善トハセズ。大ハ善ク吠ルヲ  
良トハセヌナリ。刀瘡ハカタナノキズナリ。世ニ云フ金

瘡也。其瘡ハイエテ好ナリヤ。人シ。惡語ハ一度人ヲアシク  
言フトキハ。其跡キエガタキ也。利人言ハ。人ノタメ好コト  
ヲ云言ナリ。此ハ蘇紫ノワタヲ。身ニ著タルヨリモアタハ  
カニ。心地ヨシ。人ヲソシリ傷フノ語ハ。荆棘ノイバラノハ  
リニテ。ツクヨリモ利ナリ。能諫言人ヲ利スルノ言ハ。下言  
半句ニテモ千金ヨリモ重シ。下語ノ人ヲ傷ルコト。其イタ  
ムコト刀ノ身ヲ割ガ如シ。口ハ人ヲ傷ル芥ナリ。口ヲ閉  
ラ。カクシテ。言ヲ慎ムトキハ。何方ニテモ其身ヤスキ也

史記曰兵以勝為功 兵トハ軍兵也。心武勇ニシテ  
一命ヲ輕シ。是非ヲ論ゼズシテ

テ。敵ニ向テ勝  
ヲ。功トスル也

又曰國雖大好戰必亡天下雖平忘戰必

危 君タル人太國ヲ有チテ大勢ヲ持テモ武勇ノミニシテ  
合戰ヲ好ム時ハ。終ニハ亡ルナリ。武田勝頼強ミ過テ。合

戰ヲ好ミ玉ヒ。終ニ國亡ビシ類也。天下太平ニ治リタリト  
モ。武道ヲ忘レテ其備ナキトキハ。惡逆ノ者アナドリテ。國  
ヲ奪ハント欲スルナリ。西國ノ大内義隆武ノ道ヲ忘レ。其  
臣陶晴賢ニ亡サレシ類ヒ也。文武ノ兩道ハ鳥ノ兩翼車ノ  
兩輪ノ如シ。

左傳曰禁暴戢兵保人定功安民和衆豐

財者也 禁暴トハ。暴惡ナル者ヲハ禁制ス。戢兵トハ。兵法  
ヲ習ヒ修ルナリ。或ハ兵器ヲ備ヘル也。保人トハ。

人教ヲカ、ヘ保ツナリ。定功トハ。戰功スル役々ヲカテテ  
定ルナリ。安民トハ。諸民ヲ安穩ニ慈愛スルナリ。和衆トハ  
衆人ト大將ト思ヒツクヤウニスル也。豐財トハ。衆人貧窮  
ナル者アレバ。財ヲ豐ニシテ惠ムナリ。主君吝カニシテ。金  
銀ヲ惜ミ。恩賞ヲカロクスクナクスレバ。兵ドモ忠節ヲ盡  
ササルモノナリ。是ヲ武ノ七徳ト云ナリ。

歐陽公論未  
知佛法之深  
理淺薄之說  
不足信也

又曰師克在和不在衆

師ノ勝負ハ大將ト兵ト和合スルト不和合トニヨル

穀梁傳曰伐不踰時戰不逐奔誅不愼服

言ハ敵ヲ伐コトハ時刻ヲ不愼急ニ可伐ナリ時移レバ敵其内ニ讒ヲ回スゾ合戦シテ敵敗軍スルトキハ十分ニ追詰テ不詰也敵歸服スル時眞實力謀カラ察ソ誅スルト誅セザルトノ心得可有也服スル者ヲハ誅セズト謂不可思也

歐陽公本論云今八尺之夫被甲荷戟勇

蓋三軍然而見佛則拜聞佛之說則畏慕

之者何也彼誠壯狡其中心茫然無所守

而然也

今長ハ尺バカリノ大男アリテ甲ヲキ戟ヲトリテイサメル武者ナレドモ佛像ヲオカニ佛説ト

イヘバタフトクオモフハ何事ゾト云フニ其人ノ心中クタクマドヘル故ニ佛ヲタツト僧ヲウヤマフ也若物理ヲシル人ハ佛ハタゞ天竺胡ノ法ナリトシルユヘニサシテオソレクフトマヌ也

韓子曰法令不明賞罰不信金之不進雖

有百萬益於用

賞トハ功アル者ニ物ヲ與フルヲ云罰トハ穢アル者ヲ罪スルヲ云也軍

陣ニハ金ヲ鳴ストキハ退キ太鼓ヲウツトキハ進ムナリ法度明カナラズ賞ト罰トニ信ナケレバ士卒ノ心ニナラズシテ大將ニ從フコトナシ金ヲ鳴セドモ不退太鼓ヲウテドモ不進如此ナレバ百萬ノ士卒アリトモ用ユルニ益

ナ

六韜曰。殺一人而三軍震者殺之。賞一人而萬人悅者賞之。殺貴大。賞貴小。殺及當路貴重之臣是刑上極也。賞及牛豎馬洗廐養之徒是賞下通也。

一萬二千五百人ヲ一軍ト云。然レハ三軍ハ三萬七千五百人也。一人ニ賞ヲ與ヘテ。万人悦ブコトアラバ賞ヲ與フベシ。殺スコトハ大將カ或ハ名アリテ。大ナル者ヲ殺シテヨシ。當路貴重ノ臣ノ類是レナリ。大ナル者ヲ殺セバ。衆人恐レヲノ、ク。殺一人。而三軍震ト云フ者也。賞ヲ與ルコトハ名モナキ小者ニ與ヘテヨシ。牛豎馬洗廐養ノ徒ノ類是也。小ナル者ニ賞ヲ與レバ。ソレヨリ上ナル者ノ功ヲ勵ス也。賞一人。萬人悦ブト云者也。當路貴重之臣トハ。國天下ノ權

世田

ヲ執テ。位貴ク威重キ臣也。此等ノ臣ヲ殺スハ刑ノ上ニ及ビ極ル也。牛豎馬洗廐養之徒トハ。牛豎ハ牛ヲ飼者。馬洗ハ馬ヲ洗フ者。廐養ハ馬ヲ飼者。イツレモ皆賤小ナル者也。此等ノ徒ニ賞ヲ與ルハ。賞ノ下ニ及ビ通ズルナリ。

三略曰。軍以賞為表。以罰為裏。賞罰明則

將威行。

軍中ニハ忠功アル者ニ賞ヲ行フヲ表トシ。罪アル者ニ罰ヲ行フヲ裏トス。如此ナレバ忠アル者

弥ク忠ヲ拔出ントシ。罪アル者ハ弥ク恐レヲノ、ク也。賞罰分明ナレバ大將ノ威勢大ニ行レテ。士卒皆ナ其ノ法令ヲ守リテ。將ノ下知ニ從フ也。

又云。軍無財則士不來。軍無賞則士不往。

軍中ニ財ナケレバ。頼ミナキ故ニ。外ヨリ士來ルコトナシ。又功アル者ニ賞ヲ與ヘザレバ。士卒ス、ムコトナシ。往ノ

字ハス、ム義ナリ。然レバ軍中ニハ財ヲ多ク。功アル者ニ賞ヲ行コト專一ナル也。

六韜曰。文王問太公曰。賞所以存勸。罰所以示懲。吾欲賞一勸。百罰一懲。衆爲之奈。

何太公曰。凡用賞者。貴信用。罰者。貴必賞。

信。罰必於耳。自之所聞見。所不聞見者。莫

不陰化矣。分明ニスルコトヲ云ナリ。文王太公ニ問テノ

玉ハク。賞ヲ行フコトハ忠アルモノヲ勸ル爲ナリ。罰ヲ行

フコトハ罪アル者ヲ懲ス爲ナリ。吾一人ニ賞ヲ行テ百人

ヲ勸メ、一人ニ罰ヲ行テ衆人ヲ懲サント思フ。コレヲスル

道ハ如何。太公對テ曰ク。凡ソ賞ヲ用ルハ。信ヲ專ラトスベ

シ。信トハ忠アル者ニ偽ナク賞ヲ行フコト也。忠アルレドモ

賞セズンバ。以後忠ヲツクスモノアルマ。罰ヲ用ルニハ。

必ヲ專ニスベシ。必ハ罪アル者ニハ必ズ罰ヲ行フコト也。

罪アレドモ罰セズンバ。以後罪ヲナス者懲ルコトアルマ

ジ。忠アル者ニハ。信ニ賞ヲ行ヒ。罪アル者ニハ必ズ罰ヲ行

フコトヲ我が耳ニ聞。我が目ニ見ル所ニ施サバ。彼ノ所不

聞ノ者所不見ノ者モ。ヒソカニ化シテ忠ヲ盡サスト

説苑曰。太宗曰。國家大事。唯賞與罰。

賞ト罰ト

トノニ。ニテ國家ハ治ルナリ。善アルニ賞セザレバ。不勸。惡

アルヲ罰セザレバ。不懲也。賞罰明カナラザレバ。善惡混雜

ノ治ルベキヤウナキナリ。三略曰。善者得其祐。而惡者受其誅。國安

其旧

衆善至

善者ニハ祐ヲ得セシノ。惡者ニハ謀戮ヲ受シム  
レバ。國安フシテ諸ノ善事至ルナリ

又曰祿賢不愛財。賞功不踰時。則下力并

而敵國削。賢人ニ祿ヲ與フルニハ財ヲ不吝。軍功アル者  
ニ賞ヲ與フルニハ時ヲ踰ザレバ下タル者各

削リ合セテ忠功ヲハゲマス故ニ敵國弱クナリテ。自然ニ  
削リ取ル也。楚ノ項羽軍功アル者賞ヲ行フベキニ。刻印刻

レドモ。吝テ與ヘズ故ニ士卒ノ意ハゲマス  
シテ。終ニ賤レテ漢ノ高祖ニ奪レタリ

左傳曰。敵不可縱。縱敵患生。

如何ナル計策アリトモ。敵ヲユル

清盛源ノ頼朝ノ命ヲ賊ケ置後ニ死テ頼朝ノ夕メニ亡サ  
ナリ類

ナリ

漢書曰。戰克之將。國之爪牙。不可不重之。

犬馬之有勞於人。尚加帷蓋報。況國之功

者乎。軍ニタヘカヒ。克トコロノ大將ハ。國ノ肝要タル人ナ  
リ。タトヘバ人ノ爪牙ノ如シ。君モ諸人モ重ンズベキ

也。君其恩賞ヲ厚ク行ヒ玉フベキコト也。犬ハ夜ヲ守リ。馬  
ハ人ノ勞ニ代ル。コレニヨツテ是ヲイタハルニ。帷蓋トテ。

タレギ又カサヲハイヲ加フルナリ。況ヤ大將ハ國ノ大功  
ノ人ナレバ。賞ヲ厚クスベキコト也。爪牙ハ虎ノ爪。獅子ノ

牙也。肝要ト云フコト也

史記曰。將有軍。君命有所不恃也。

大將トシテ軍ヲス

ル時ハ。君ノ命ヲモ聞ザルコト有ルゾ。其ノ故ハ  
大將ハ我ト謀テ敵ニ勝カ。君ニ忠節ナレハ也

六韜曰因其所嘉以順其志彼將生驕必  
有好事苟能因之必能去之從

敵ノ喜ヒスク所ニヨツテ彼ガ志ニ順フベシシカルトキハ敵ワレニ逆フ者ナシトテ驕ヲ生ジテサマクノ惡事ヲ好マン誠ニ能如此ナラバ敵ノ士卒臣下必ズ皆其上ヲウラムル心アリテ盡ク我ニ歸服セント也

又曰輔其淫樂以廣其志厚賂珠玉娛以

美人卑辭委聽順命而合彼將不爭焉節

乃定淫樂ハ人ノ心ヲトラカス樂也敵國ノ君淫樂ヲスキコノメバ此方ニモトモニ警テ弱ク淫樂ヲフキ好マ

スル也多ク金銀珠玉ヲ賂ニ贈リ或ハ美女ヲ贈リテ娛マシメテ驕ヲヘリクダリテ諸事彼ガ言マハニシ敵國ノ

命ニ順フテ少モ逆ハザレバ彼ノ敵國我ニ半ハズシテ心イヨク驕リテ茲シク邪ナル心スナハチ定ルナリ

又曰陰賄左右得情甚深身內情外國將

生害敵國ノ君ノ左右ヲハナレ又近臣ニヒソカニ賂ヲヤリテ近臣ノ情ヲ得ルコト甚ダ深ケレバ彼近臣身ハ

敵國ノ内ニアリトイヘドモ情ハ外此方ニ懷キ有也如此ナレバ敵國ニ害出來テ終ニハカナラズ敗ル者ナリ

堯山堂外紀曰元栢子庭詩世間何物最

堪憎蝨虱蚊蠅鼠賊僧船脚車夫并晚母

濕柴爆炭水油燈此詩元ノ栢子庭ト云吳ノ僧ノ作也書ヲヨクシ盡ク善セル人也此

可憎ト云題ノ詩ナリ世間ニ最モ憎キ物ハ蝨虱蚊蠅鼠賊僧船脚車夫并晚母ト云

云へリマコトニ何モ憎  
キモノニ非ズヤ

世説ニ曰ク。唐ノ代宗ノ廣徳年中ニ。孫恪ト云者洛中ニアリ  
ンデ。猿氏ノ姪ヲメトリテ妻トセリ。其後十餘年ヲ經テ。瑞  
州ノ峽山寺ニイタル。猿氏スナハチ猿ヨリ碧玉環ヲ出レ  
テ。僧ニ奉リテ曰。是ハ此院ニアリシ舊物ナリ。僧コ、口エ  
ズ思ナガラ。受トリケリ。齋スギテ後。山ヨリ猿ドモムラガ  
リアツマリテ。庭ニ來ル。猿氏ノ女。是ヲ見テ。オドロキイタ  
ルケシキニテ。筆トリテ詩ヲ題シテ曰ク。無端造化多  
沈剛被風情。役此心。不知逐伴歸山去。長咲一聲煙霧深。此詩  
ヲ書シテ。ハリテ。衣ヲカミサキ。猿ト化シテモロクノ猿ト  
トモニ。山ニハシリ去ル。僧ハジメテサトツテ曰ク。此猿ハ  
ワガムカシ。養ヲキシ猿ナリ。コノ玉環ハ胡人ノ施ストコ  
ロニシテ。猿ノ頸ニカケタリシタマキ也。ト云へリ。

李大本之風世俚言曰。避嫌疑詩云。女子

年當省事時。莫容出外去。遊嬉僧房佛室

尤當忌親戚人家。亦不宜遠僧道。詩云。僧

尼道士到人家。女子休教出。侍茶說法講

經都莫聽。恐生情意有歪斜。子年十五六。二ナ

リ。カシ。ザシ。カフ。レ。時。分。ニ。ハ。ム。ザ。ト。外。へ。出。テ。月。見。花。見  
ノ。遊。山。又。ハ。歌。舞。妓。芝。居。ナ。ド。ノ。見。物。ヲ。モ。免。ス。ベ。カ。ラ。ズ。僧  
房。へ。行。キ。佛。ニ。マ。ウ。デ。ル。コ。ト。モ。ナ。ス。ベ。カ。ラ。ズ。下。門。親。類。ノ  
參。會。モ。ヨ。ロ。シ。カ。ラ。ズ。又。ハ。出。家。尼。ナ。ド。ノ。來。リ。タ。ル。時。女。子  
ニ。茶。ヲ。ハ。コ。バ。セ。給。仕。ナ。ド。サ。ス。ベ。カ。ラ。ズ。談。義。説。法。ナ。ド。聞  
ク。ベ。カ。ラ。ズ。恐。ク。ハ。辱。ニ。情。ヲ。起。シ。テ。ミ。ダ。ラ。ナ。ル。コ。ト。ア。ル  
ト。也。





合璧故事 豈知木客解吟詩

寰宇記云洛山ニ

者アリ。鬼ノ類也。形ハ人ニ似テヨク言フガ如シ。徐鉉ト云  
人ハ南唐ノ時ノ者也。都陽ノ山中ニテ木客ニ逢ヘリ。自ラ  
言フ。ワレハ秦ノ始皇帝ノ時阿房宮ヲ造ルニ。其木ヲ採シ  
者ナリ。常ニ木ノ實ヲ食ヒテ。如此ニ長生スト云ヘリ。時ニ  
民ノ家ニ入テ。酒ヲ飲シ。詩一章ヲ為テ曰ク酒盡君莫沽。壺傾  
我當發城市。多驚塵。還山弄明月。ト言ハ酒モツキヌルホド  
ニ。我マサニカヘルベシ。都ハイトカシマシク。塵埃ニケガ  
ル。ホドニ。山ニ還テ。シヅカニ月ヲモテアソブベシト也。

又云竊銅常見徒奸吏

九域志書地理。賈郁ト云人  
性正。蘇ニノ人ノ過ヲカ

ザルコトヲユルサス。所ノ奉行ナドノ依怙アルヲ吟味シ  
テ罪ス。時ニ仙遊縣ノ令トナル任ハテ。代ルトキニ。丁吏  
醉在スルモノアリ。賈郁怒テ。吾フタ、ヒ此ノ郡ヲツカサ  
ドラバ。此等ノ吏ヲ罪シコラスベシト云。吏聞テ公欲再令  
猶造鉄船渡海ト云テ笑フ。是ハ賈郁ガフタ、ヒ此所ノ令  
トナランコトハ。鉄ノ船ヲ作りテ海ヲワタルヨリハカタ  
カラントノ意ナリ。其後チホドナク又此處ノ令トナリテ  
來ル。彼醉在シタル吏ハ。庫奉行トナレリ。又官錢ヲ盜ミテ  
トラヘラタリ。賈郁其罪ヲ榜ニ書シテ。竊銅錢以潤家。非  
困鼓鑄造鉄船而渡海不假爐鎚ト云テ。背ヲムチウツテ。罪  
ヲ行ヘリ。此心ハ銅鑛ハ錢ナリ。錢ヲ盜テ。其家ヲウルヲス  
ハ。鼓鑄ニヨラズトテ。錢ヲ鑄ル造作モナクテコ、ロヤス  
シ。鉄船ヲ造リテ海ヲワタルハ。爐鎚ヲカラズト云テ。此ノ  
鉄船ヲツクルニハ。フイガウモ。ツチモイラズ。心ヤスク出  
來テ。又我レ此ノ郡ノ令トナ  
リテ。汝ガ罪ヲタバスト也。

又云論錢盡買不平事

沈存中ノ筆談ニ昆陵ト  
云所ノ女子詠錢詩云。半

輪殘月掩塵埃。依稀猶有開元字。想見清光未破時。買盡人間  
不平時。ワレタル錢ハ殘月ノ半照ス如ク也。開元ノ錢ハ唐

ノ第二主高宗ノ時ニ鑄サセラレタル開元通寶ノ錢ナリ。此錢ワレズシテ清光全クケレバ人間不平ノ事ヲ又ガレテ用事ヲ達スル也

又云幾破我家羞子厚ホトシカ宋ノ蘇徹ソウテツ字ハ子由シユ。官舎ニ

居ルコトヲ強ク惡ムガ故ニ子由ガアル處ノ民屋ヲ賣テ破ラントス。ワヅカニ一二年モ經ズシテ子厚モ夕雷州ニ謫セラル亦舎ヲ民ニカラント問ケレバ民ソ曰ク前ニ蘇公ノ來リシ時章丞相シヤウシヤウ相シヤウ事スデニ我が家ヲ破ラント云。今トテモ其擬ヲソムカジト云テウケガハズ其ノ報如此ニレメグ

又云祥光滿室見天真ゴトニ香ヲ焚テ天ヲ禱

シテ曰ク其ハ胡國ノ者ナリ。天下ノ乱ニ起ツテ衆人我ヲ推ユルシテ天子ノ位ヲ踏コトヲエタリ。願クハ天ハヤク聖人ヲ生ジテ萬民ノ主トナシ。天下ヲ治メシメ給ヘトイノリ玉ヘリ。時ニ后唐ノ太成二年丁亥ノ年宋ノ太祖姓趙名ハ匡胤洛陽ノ太内ノ夾馬營ニウマレ玉ヘリ。是ノ時祥光瑞氣其家ニカ、ヤキミテリ。其光人ヲテラシカ、ヤカス。異香ハナハダ馥郁トカウバシクシテ宿ヲ經テヤマズ。時ノ人コレヲ香孩兒ト云フ。

蔡君謨詩云花未全開月未圓看花待月

思依然明知花月無情物若使多情更可

憐トスレドモ月モイマダ盛ニ開タルハナシ。月ヲ見ン

ヤムコトナシ。人ハ多情ニシテ花月ハ無情ノモノナルコトヲ能ク知レドモ却テ此ノ花月ニ惱マサル、也。若花月

多情ナラハイヨク愛スルコトフカ、ラントナリ。此詩ニハ。心カハリタレドモ。古哥三。大カタハ月ヲモメデジコレゾコノツモレバ人ノ老トナルモノヲ。ト讀ルモ多情ヲ催スコトヲ云ナリ。月斷性祭ト云ニアヘリ

僧奉忠夏雲詩云如峯如火復如綿飛過

微陰落檻前大地生靈乾欲死不成雲雨

謾遮天 夏ノ雲ハ。色々ノ形ニタナビクモノナリ。或ハ山峯ノ如ク。又火ノモユルガ如ク。又綿ヲツミカサ

子タルガ如クナリ。夏雲多奇峯ト云テ。カヤウニ。メツラシクアルモノナリ。雲ノミ子ト連哥ニモスルナリ。此雲飛スグレバ其影ワツカニ。檻前ニラツルバカリナリ。此ノ炎天ニ世界ニ生ヲウケタルモノ。カレカハキテ死ナントスレドモ。夕雲トナリテ。天ニワタレルマデニテ。下瀦ノ雨ヲモフラサズ。マシテ大雨ノ万物ヲウルホスコトハ。思ヒモ

ヨラス也。是ハ宋ノ章惇ト云者天下ノ政ヲ行ヒテ。アシカリケレバ罪セラレテ。雷州ニ流サレタリ。南山寺ニ至ルトキニ。其寺ノ沙門奉忠トイヘル者。此詩ヲ作。夏雲ヲ以テ。章惇ニタトヘ見セケレバ。章惇大キニ愧テ。赤面シタリケリ

學海群玉卷四十物事類鏡詩我向君家

尋自家。自家先得君家君家不説自家

事見了君家見自家

見ル人自ラ言也。又燭ノ詩ニ曰ク。能明萬事在心机。失却心兮不明矣。若能發却心頭火。天地昭彰不昧形。能アキラカニシテ萬事ヲ見ワクルコトハ。燈心ヲモト、スルナリ。人ノ主心ノ如シ。一身ニモ主心ナケレバ。万事クラキガ如シ。若シ能ク燈心ヲ發却シテ。カ、グル時ハ。天地ニ光遍滿シテ。萬物ヲ見ルナリ。又草鞋ノ詩ニ云。雲雨來時我獨當。黃昏

手印

兩兩入蘭房。奈何一且肝腸斷。棄舊迎新。路傍。草鞋ハワ  
 ランツ也。此詩ハ草鞋ヲ女ニ比シテ作ルナリ。雲雨ハ未婦  
 ノ相逢。コトヲ含ミテ云ヘリ。兩ノフリクル時ハ。カナラズ  
 俊ニアタルナリ。ユフグレニハフタツナガラ蘭房ニ入ル  
 ズ。カヤウニ用ラル、カト思ヘバ。一且ステラレテ。斷腸ス  
 ル也。必ズ舊キハステラレ。新キヲ迎ヘテ用ラル、也。又兩  
 傘ノ詩ニ。有情即棄我。無情我伴。即。新晴雲雨。後棄却在門傍。傘  
 ガ主人ヲ恨ミ言ナリ。即ハ有情ノ人ナレドモ。我ヲイラヌ  
 時ハスツルナリ。我ハ無情ナレドモ。即ニシタシミ伴フナ  
 リ。雲雨ハ雲起リテ雨來ルナリ。男女ノ情ヲ通スルヲ雲雨  
 ト云ナリ。ソレヲ含ミテ言ナリ。雲雨ノ時ハ用ラレテ。雨晴  
 ヌレバ門ノ傍ニステラル、也。又釐等ノ詩ニ。身帶銅鑼。非  
 鋪兵。小葫蘆。繫在身。周天星斗羅。吾有能與凡人分重輕。  
 身帶銅鑼。トハハカリノ血ノナリガ銅鑼ニ似タルニヨツ  
 テ云也。銅鑼ハ軍兵マフクル時ニ用ルニヨリテ非鋪兵ト  
 云ナリ。小葫蘆ハナイサキ。敲鞮ノコト也。ヲモリノ形。駝

○酒瓶酒鐘之二詩見學海群玉卷四下物事類

箏ニ作リタルヲ云也。周天星斗ハ下天ノ星ハ其背ニツラ  
 ナリテ在也。人物ヲカケテ轉重ヲ分チシルト也。

酒瓶詩



映金不盡滿瓊。甜入口。遠不知好酒留。實十里。香嘗美房客。章且漿。

有王孫公子。家沈醉。各歸念。劉伶詩。百。門。脚不藏身。進退交。君子細尋。

讀法七言八句。耳嘴七言四句。底五言四句。

○酒映金盃滿瓊香。日有王孫公子嘗。

甘甜入口連心美 大家沈醉各歸房

方知有酒留賓客 口念劉伶詩百章

十里荷花紅粉且 一輪明月照瓊漿

○藏頭藏脚不藏身 進退交君仔細尋

任君用盡千般計 不是才人讀不成

○口口呂公言 問口問神仙 田心思君子 山山出太賢

酒 清香透是神仙計 造劉伶道 杜康造酒 讀法身七言四句脚

鍾 重字起頭 五言四句 鍾字ヲ

詩 香字結尾 重下金下二字二分也透

ノ字ノ中乃下へ讀愁

ノ字ノ心ヲ分テ又下讀也

○重斟美酒清香透 乃是神仙計造壺

金盃飲酒解消愁 心醉黃公舊酒廬

○劉伶道杜康 造酒有奇方 隔壁三家醉 開埕十里香

文選二十七 魏武帝短歌行云對酒當歌

人生幾何 譬如朝露 去日苦多 慨當以慷

憂思難忘 何以解憂 唯有杜康 此詩ノ心ハ

人ノ命ハイクホドモナシ 酒ヲ飲テ歌ヒ樂ムベシ 一生ハ

朝ノ露ノ日ヲマツテ干ヤスキガ如シ 死シ去ル日ハ多カ

ルベシ 是ヲ思ヘバナゲキイタミテ憂ヒヲ忘レガタシ 此

ノ酒ヲ造ル人ナレハ則酒ノ異名トスルナリ 武帝ハ魏曹

操ガ事也 博物志曰 杜康作酒 士著與杜康絕交 書曰 康字仲

寧。或云黃帝時宰人號酒泉太守。

焦氏類林卷七云。唐子西ト云者。惠州ニイマス。時ニ酒ノヤハラカナルヲナツケテ養生主ト云。勁モノヲ齊物論ト名ツケリ。同卷ニ曰ク。揚誠齋官ヲ辞シテ退去ノ時。酒ノ和カナル者ヲ金盤露トナツク。其ツヨキ者ヲ呼デ椒花雨トイヘリ。常ニ曰ク。余愛椒花雨。甚於金盤露。

西

王勉夫禁客叢書卷五。青州從事平原督郵ト云コトヲ解釋ス。此酒ノ異名ナリ。青州ト平原ハ地ノ名。從事ト督郵ハ官ノ名。此ヲ以テ好酒ヲ青州。從事ト云。惡酒ヲ平原督郵ト云。其義ハ青州ニ齊縣ト云所アリ。齊ト臍ト音同キヲ以テ。義ヲ借リ。好酒ハ臍ノ下ハテ醉ガ故ナリ。從事ノ官ハ高ク。青州ハ國大ナリ。好酒ヲ貴フ心ナリ。平原ハ郡ニテ小。督郵ハ官卑シ。惡キ酒ヲ卑メテ云。又平原郡ニ高縣ト云處アリ。高ハ隔ト音同キヲ以テ。惡酒ハ臍前ハカリ醉ガ故也。○根本ハ

晋。桓温ト云者ニ主簿ノ官トナリ。從ヒタル者ノ云出シタルコトナリ。世説ニ載タリ。○本朝ニモ項間京童ノ言ニ古酒ヲ祇園會ト云ヒ新酒ヲ御靈祭ト云。如何ニトナレバ古酒ハ味厚クシテ身軀ノ上下共ニ濕フテ醉フ。祇園ノ大社ノ祭ニ上京下京共ニ賑フガ如シ。新酒ハ味薄シ。頭上ハカリ酔テ下寂ナリ。御靈ノ小社ノ祭ニ上京ハカリ賑ヒテ下京ノ賑タタルガ如シト云。モ青州平原ノ故事ニ似タリ。○又酒ヲ合歡ト云フモ禮記ヨリ出タリ。又歡伯ト云モ焦贛易林ニ出タリ。○又晋。鮮于輔ガ曰ク。酒ヲ好ミ醉ルコトヲ樂ム客。清ル酒ヲ聖人トシ。濁レルヲ賢人トス。○又唐元結好酒故ニ不飲人ヲ惡客ト云ヘリ。

錦繡萬華谷前集卷三十五。酒ヲ狂菜ト稱クルコトヲ載タリ。本朝ノ俗語ニ酒ヲ氣狂水ト云ニ同シ。萬華谷云。晋。孫季舒。與石崇酣飲。慢遊過度。崇欲表免之。裴楷曰。足下飲人狂菜。責人正禮。不亦乖乎。乃止。出楷傳。

酒器  
九品

鸚鵡  
盃

潛確類書卷九十一曰逢原記李適之者

嗜酒作酒器九品○蓬萊盞海川螺舞仙

盞瓠子卮幔捲荷金蕉葉玉蟾兒醉劉伶

東溟樣蓬萊盞ハ盃ノ上ニ三山アリ。三島カタドレリ酒

ナリ。舞仙盞ハ門闌アリ。酒ヲモリソ、グトキハ。一盃ニミ

ツレバ。仙人出テ舞ナリ。又云。南越志ニ。南海ニ蝦ヲモツテ。

杯ニ作ル鬚ノ長サ數尺。金銀ヲチリ

命謝長珠鼓拂雲之琴舞驚波之曲坐有

同卷曰謝氏詩原金母召群仙宴于赤水

碧玉鸚鵡杯白玉鸕鷀杓杯乾則杓自挹

欲飲則杯自舉故太白詩云鸕鷀杓鸚鵡

杯非指廣南螺杯杓也▲南州異物志鸚

鵡螺狀如覆杯頭如鳥頭向其腹視似鸚

鵡故以為名▲梁簡文集云車渠屢酌鸚

鵡驟傾車渠鸚鵡皆指酒盃俗傳車渠為

杯注酒滿過一分不溢言ハ車渠ト云フ貝ヲ杯

杯ノ上、一分ミチスグレドモ。チ

ツトモコボル、コトナキ也

鳥程  
下若

又云韋昭吳錄烏程下若酒有名劉禹錫詩鸚鵡杯中若下春是也

下若村人取下若水以釀酒醇美勝零陽若漢亦作箬溪吳地記長興故屬烏程太康十年分為五縣又云石榴花李義山詩我為傷心春自醉不勞君勸石榴花○梁元帝詩榴花聊夜飲竹葉解朝醒○荔枝綠王公權家荔枝綠廖致平家綠荔枝皆我州第一○石榴花荔枝綠皆ナ美酒ノ名也烏程下若酒名ナリ

酒有  
遺謔

孔叢子云平原君強子高酒曰昔有遺謔堯舜千鍾孔子百觚子路嗑々尚飲十榼古之聖賢無不能飲也

孔子子路モ皆大上戸ニテ千盃百盃モ飲タリト無キコトヲ云傳ヘテ人ニ酒ヲシイル也

飛英  
會

潛確三云范蜀公居許作長嘯堂前有茶藤架花時宴有花落酒盃中飲以太白舉坐無遺謂飛英會

茶藤ハ別ノ花ヲ云フカ其色餘醺酒ニ似タリ故ニ名ヅク此花雪ノ如ク飄ヘツテ酒盃ノ中ヘ落テ興アリ飲以太白トハ太白ハ大ナル盃ヲ云ナリ

列子卷下湯問篇ニ載ス魯公扈趙齊嬰ト云者二人病ス時ノ名醫扁鵲ヲ請待シテ二人ノ疾ヲ治センユトヲ求ム扁鵲此ヲ療治シテ二人トモニ本復シタリ扁鵲此ヲ療セントスルニ必ンデ二人ニ對テ汝等以前ヨリ疾若シ外カ事物



西日

療治スルトモ。及バザルコトナリ。今汝等ノ疾ハ已ニ生ラ  
 受ル時ヨリ始テ。五臓ト備ニ増長セリ。予今此ヲ治セシ。何  
 如ント云。二人聞テ異ム。凡ソ世上ノ醫者所療ハ。有生ノ後  
 ノ疾ヲ治ス。生實ニシテ。疾アルハ難治トス。却テ此ヲ療セ  
 ント云フハ不思議ナリトシ。其治スル驗ヲ聞テ後ニ。醫療  
 フ可頼ト云。扁鵲其所以テ公扈ニ向テ。汝ハ志ハ疆クシテ。  
 氣力弱シ。是故ニ平生志ヲ用テ事ヲ謀ルニ足リテ。其ノ事  
 ヲ決断シ遂行フコトニ難シ。齊嬰ハ志ハ弱クシテ。氣壯シ  
 ニ疆シサルニ依テ事ヲ思慮スルニ短クノ專ラ汝等二人  
 ノ心ヲ互ニ取換タラバ。均ク善ニシテ。疾可除ト云テ。遂ニ  
 二人ニ毒酒ヲ飲セ。沈醉サセテ。死スルガ如ク。前後不覺ナ  
 ルコト三日。此ニ至テ二人ノ胸ヲ剖テ探リテ。互ニ取換  
 テ。其上ニ神妙ノ藥ヲ與ヘヌレバ。醉醒テ初ノ如シ。二人喜  
 テ。扁鵲ニ詳シテ各還ル。然レドモ二人ノ心ヲ取換タルニ  
 依テ。公扈ハ齊嬰ガ室ニ及ル。齊嬰ガ妻子アレドモ齊嬰ニ

扁鵲 見疾

アラザレハ。其人ヲ不識。齊嬰モ亦夕公扈ガ室ニ及ル。公扈  
 ガ妻子亦齊嬰ヲ不識。二人ノ妻怪テ。扁鵲ニ此ハ如何ナル  
 コトゾト責問フ。扁鵲不駭。其由來ヲ辨別シテ答ヘケレバ。  
 其説已タリトアリ。此實事ニアラス。例ノ列子ガ事ヲ假設  
 ケテ云也。言ハ今古共二世人心ヲ氣ノ疆弱ニ障ラレ。本性  
 ノ如クニ自由セザル者アリ。此ヲ曉シ明ラメサセシ。為ノ  
 設ナリ。然モ其所言ノ心ハ性心ノ  
 心ヲ指スニアラス。氣質ノ心ナリ  
 史記ニ扁鵲ハ渤海人ノ也。姓ハ秦名ハ越人ト云フ。名醫也。  
 嘗テ齊ノ桓侯ニ見テ曰ク。君有疾。腠理ノ間ニアリ。今若シ  
 不治スナハチ深ク入ベシ。後ニ又見ヘテ曰ク。君有疾。血脉  
 ニアリ。不治マサニ深クナルベシ。其後五日アツテ復見ヘ  
 テ曰ク。君有疾。腸胃ニアリ。不治マサニ深クナルベシ。桓侯  
 疾ナシト思召テ合点シ玉ハズ。其後又見ヘテ。走リ反ツテ  
 曰ク。疾骨髓ニアリ。針灸湯藥ヲヨコトナシ。數日アツテ。  
 桓侯病リ。扁鵲ヲ召。扁鵲ステニ逃カヘレリ。公スナハチ卒テ。

聖陽

セリ○稽康養生論曰。桓侯抱將死之疾。而怒扁鵲之先見。以  
驚痛之日。為病之始也。害成於微。而救之於著。故有無功之治  
矣。病ノ微ナル時ニ療治ヲセラ  
レバ醫者ノ功ナキヲ云也

潛確三日。雙林大士。自往蒙頂。結庵種茶。  
凡三年得絕佳者。號聖陽花。持歸供獻。

異名ヲ聖陽  
花ト云ナリ

東坡  
三養

群談採餘卷二。東坡在黃州。嘗書云。東坡  
居士自今以往。早晚飲食。不過一爵一肉。  
有尊客設饌。則三之。可損不可增。有召我

者。預以告之。主人不從。過是乃止。一曰安

分以養福。二曰寬胃以養氣。三曰省費以

養財。東坡黃州二流。サレテ居ルトキ。朝夕ノ膳部肉一種酒  
ハ一盃ニハ過サルナリ。或ハ貴人ヲ客ニ得タル時ハ

三種ヨリ外ハナシ。佗ヨリ招ク時ハ。マハカドヨリ主人ニ  
告テ。一爵一肉ヨリ多クスルコトナカレト云。主人是ヲキ

カザル所ヘハ。マ子ケドモ不行也。分際ヲ安クシテ。福ヲ養  
ヒ食ヲ多クセザレバ。脾胃ヲ寬クシテ。氣ヲ養ヒ。費ヲスク

ナクスレバ。財ヲ養フ是。三ノ養ナリ。孫真人養生雜訣曰。寡  
思慮以養神。寡嗜欲以養精。寡言語以養氣。是孫真人之三養也。

潛確類書卷四十六。塵史熙寧間。故太師三公拱辰。ト云フ人。洛  
陽ノ道德坊ニ第ヲツクリ。營ミテ甚ダ奇麗ヲツクシテ。侈

レリ。中堂ニ居テ高ク起シテ。最上ヲ朝元閣ト云。常ニ登リ  
テ樂ソリ。其比司馬君實モ亦洛ニ第ヲ作レリ。地ヲ窵コ

巢居  
穴處

ト深サ一丈餘リ。穴舎ノ如クニ壞室ヲ作レリ。常ニコレニ入テ樂シム。邵雍翁夫アルトキ富鄭公ニ見ユ。鄭公問テ曰ク。洛中ニ頃何ノ新キ事カアル。堯夫ノ曰ク。近比有一巢居一穴處者。此兩人ノ屋ヲ作りテ居コトヲ語ル。富鄭公大ニ笑ヘ

尺庇風雨

潛確類書卷四十六。通鑑龍門王通教授于河汾之間。累徵不起。楊素勸之。仕通曰。有先人之弊。廬足以庇風雨。薄田足以具餐粥。讀書談道。足以自樂。願明公正以治天下。使時和歲豐。通也。受賜多矣。不願仕也。

也

龍門ト云所ノ王通ト云人教授トテ學文ヲ人ニ教ヘテ居ラレケルニ。楊素ト云人來リテ。君ニ仕ヘテ官ヲ得玉ヘトス。ムルトキ。如此。答ヘテ。遂ニ仕ヘザリケリ。先祖ヨリ傳ハリシ弊レタル家アリ。是ニ居テ風雨ノ難ヲマヌカル。也。田地少シアリテ。朝夕ノ餐アリ。書ヲ讀テ古人ヲ友トシ。道ヲ談ジテ樂ムニハシカズ。只子カハクバ其方ヲチ君ノ政ヲタスケテ。天下ヲ能ク治メテ。風雨時ニレタガツテ來リ。五穀豐饒ナラバ。是千金ノ賜ヨリモカタジケナカルベシ。我此樂アレハ。仕官ヲノゾマザル也ト云ヘリ

始作饅頭

成田

群談採餘卷十曰。漢諸葛亮征孟獲。奏凱。回日至瀘水。風濤不能度。人曰。蠻多邪術。須禱于神。常例必殺四十九人頭以祭之。

則怨鬼自散方可渡也亮曰吾班師回都

安可妄殺一人吾自有主見乃雜用羊豕

肉和麩為劑塑成假人頭為言饅頭作祭

文以祠遂風息浪靜可渡此名遂傳

軍二勝奏凱トハカチドキラツクリ。或ハ喜ノ歌ヲ歌テカ

ヘルヲ云。瀘水ヲ渡ル時風アラク濤ヲアゲテ。渡ルコトカ

タシ。或人ノ曰ク四十九人ノ頭ヲキリテ。御供ニ備ヘテ。神

ヲ祭ル時ハ。浪シツマルト云。諸葛亮聞テ曰ク。敵ヲホロボ

シテ軍ヲカヘスニ。妄リニ一人ヲモ殺スベカラズ。吾一備  
計有トテ。温鈍ノ粉ニ羊豕ノ肉ヲラシ。雜テ團子ニシテ備  
ヘ。祭文ヲ作テ祠ニ風止浪靜テ。  
渡ルコト得タリ。是饅頭ノ始也。

新論盡為西施美而不可悦刻作桃李似

而不可食

西施ハ美人也。其形ヲ書トキハ美シケレド  
モ。生ル西施ニ非ズ。桃李ハヨキ菓ナレド。形

ヲ刻ミナシテモ不可食。是ハ名ノミ

アリテ實ノナキヲ云テ喻トスル也

韓非子曰輿人成輿則欲人之富貴匠人

成棺則欲人之夭死非輿人仁而匠人賊

也。不貴則輿不售人不死則棺不買

シクルマヲ作番匠也。匠人ハ棺槨ヲツクル大工ナリ。輿人  
ハ常ニ人ノ富貴ニナランコトヲ願フ。コレ輿ヲウランタ  
メ也。匠人ハ人ノ死セシムコトヲ子ガフ。コレ棺ヲウラン  
ガタメナリ。孟子ニ巫匠モ亦然リトアルハ是ノ義ナリ

◎

又云人有鬻矛與楯者。譽其楯之堅物無能陷也。俄而有譽其矛曰。吾矛之利物無不陷也。人應之曰。以子之矛陷子之楯何如。其人弗能應也。

物ヲ能クトラスコト。イカナル堅キ物モ破ラズト云フコトナシト云。又楯ヲ賣ルトキハ此楯イカナル物ヲ以テ破ルトモ破ルコトナシト云。或人は是ヲ聞テ難ジテ曰ク。汝ガ矛ヲ以テ汝ガ楯ヲ破ラバイカント云ヒケレバ。此者赤面シテ答フルコトアタハズ。○是ハ自言フコトノ相違スルコトヲ矛楯ト云。又ハ人ト中ノ不和ニナリタルヲモ矛楯ト云。ハ人ヲサ、ント云。楯ハ人ヲフセガントシテ堅ニ相違ク物ナリ。

又云出則以車入則以輦務以自佚命之曰招廢之機。肥肉厚酒務以相強命之曰爛腸之食。靡曼皓齒鄭衛之音務以自樂命之曰伐性之斧斤。三患者富貴之所致也。

他ヘ行クトキハ車ニノリ。輦トテ人ニ。ニナハルハ。是レアシナヘト同ジケレバ。アシナヘヲ招クノキザレト云。唯手ノヤツコ。足ノノリモノ。我心ニカナヒテ安キ也。淡キ味ヒ。ヲロソカナル食物ニテモ。我口ニカナフベキニ。酒肉ヲ好ミテ飽滿スルハ。腹ヲソコナヒ腸ヲタブラカスナリ。男女ノ欲ハ定リタル道ナレドモ。其分際ノ法アルベキニ。色ニフケリ妓樂ヲ好ムハ。性心ヲキルノ斧斤ナリ。富貴ナル者ハ右ノ三ツノウレヘアル故ニ。養生ノ道ニクタクシテ。病ヲウ

クルナリ。又枚乘ガ七發ニ。出與八輩命曰。麗寒之機。洞房清  
宮命曰。寒熱之媒。皓齒蛾眉命曰。伐性之斧。肥膩皓命曰。腐  
腸之藥。ト云ルモ  
同ジ心ナリ

劉子新論云。宣尼臨没。手不釋卷。仲舒垂  
率口不輟誦。有子惡臥。自碎其掌。蘇生患

睡親錐其股。古人ハ死期マデモ學文ニラコタラザリ  
也。宣尼ハ孔子也。文宣王ト云シ也。七十

三歳ニテ終リヲトリ玉フ。ソレマデ手ニ書ヲハナチ玉ハ  
又ナリ。仲舒ハ前漢ノ董仲舒ヲ云。卒スルマデ。學文ヲツト  
メン人也。有子ハ孔子ノ弟子ノ有若ナリ。自ラ其掌ヲイタ  
メテ睡ヲ除キツトメシ人ナリ。蘇生ハ戰國ノトキノ蘇秦  
也。學文ヲ勤ムルニ睡ノサスヲ苦  
シミテ其股ニ錐ヲサシタルナリ。

又云。蘧瑗不以昏行。變節顏回不以夜浴。  
改容獨立。不慚影。獨寢不愧衾。

夜ニアリクトイヘドモ車聲ノヒバキミダルハコトナシ。  
衛ノ靈公ノ門ヲ過ルトキ。夜ナレドモ車ヨリヲリテ禮ヲ  
ナシテ。トヲリシラ。后ノ南子ハ遠伯玉ナリトシリ玉ヘリ。  
昏夜ニテ人ハシラザレドモ。君子ハ白晝ノ如クニ思ヒテ。  
節ヲ変ゼザルナリ。顏回ハ孔子ノ弟子。顏淵ナリ。夜湯ヲア  
ビヌレドモ。常ノカタチヲアラタメズ。我カ心ニ僻事ナケ  
レバ獨立テモ影ヲ不慚ヒトリイ子テモ衾ヲハチズト也。  
此ノ義ハ大學中庸ノ謹獨ト云ヘルニモ通スヘシ

李氏逸書曰。張融善艸書。齊高帝謂曰。卿  
書殊有骨力。但恨無二王法。答曰。非恨臣

天田

無二王法亦恨二王無臣法又嘗嘆曰不

恨我不見古人恨古人不見我張融ヨク草書ニ妙ヲ得

アリ。齊ノ高帝ノ曰ク。汝ガ筆法ハ骨カアレドモ。二王ノ法ヲ。マナバザルハ。殘念ト也。二王ハ王羲之。王獻之也。晋ノ代ノ能書ナリ。張融答ヘテ臣ガ書ニ。二王ノ法ナキハ。恨ミニアラズ。但二王ノ臣ガ法ナカリシヲ恨ルト云ケリ。筆法ハルカニ古人ニ勝リシト思ヒシナリ

又云北魏侍中崔光嘗名其子曰劭曰勉

曰勛文帝名其子曰恂愉悅懌帝謂光曰

我兒名傍皆有心卿兒傍皆有力答曰所

謂君子勞心少人勞力帝大嗟賞焉北魏ノ崔

光ト云フ者。侍中ノ官トナル其子三人ノ名字。皆傍ニカノ字アリ。文帝曰。朕ガ四人ノ子。名ノ字。皆立心篇ナリ。卿カ子ノ名ノ字。傍ニカアルハ如何ト問玉フ。崔光答テ曰ク。論語ニイハユル。君子勞心小人勞力トアルニカナヘリト云ケリ。即座ノ返答。主臣ノ道ニ契ヒ。聖人ノ言ニ因テ答ヘタルヲ嘆美ナサレタリ

又云梁張率侍武帝遊宴賦詩帝別賜率

詩曰東南有才子故能服官政余雖慚古

昔得人今為盛率年十六作賦頌二千餘

首虞訥見而詆之率皆焚燬之別為文託

爲沈約所作訥句句嗟賞無字不善曰吐

金嘔玉者也率曰是鄙作訥大慚梁武帝時張率

ト云者奇オアリテ帝ノ遊宴ニ侍シテ詩ヲ獻ス帝コレヲ賞美シテ詩ヲ賜ハル今ノ天下昔ニ慚トイヘドモ人ヲ得ルコトハ昔ヨリ盛ナリトノ玉ヘリ張率十六歳ニテ賦頌二千首ヲ作レリ眞訥是ヲ見テ誡テ曰ク皆ヨロシカラズト張率皆コレヲ焚ウシナフ別ニ文ヲ作リテ是ハ沈約カ作ナリトテ眞訥ニ見セケレバ一句ヲ感嘆シテ金嘔ヲ吐玉ヲ嘔ガ如クナル句ドモ也ト譽ケルトキ是モ我カ作ナリトイヒケレバ眞訥甚タ慚タリ

文選古詩云生年不滿百常懷千歲憂晝

短苦夜長何不秉燭游人ノ一生ハワヅカニ百年ニミタザレトモ千年モイ

クベキヤウニ思ヒテ遠キ末ノ事マデテ計リツ子ニ憂ヲナスナリ日夜トモニ夕ノシム時ハイキタル甲斐アルベシ東坡が夜遊スルトキ五十年イキテモ百年イケルニ同ジトイヘルハコノ句ノコノロナリ

東坡詩集云寂寂東坡一病翁白頭蕭散

滿霜風兒童誤喜未顏在一笑那知是酒

紅東坡ハ蕪軾字ハ子瞻ノ事ナリ年ヨリテ白髮ノ翁トナリタルニ童兒見アヤマリテ東坡ワカクナラレテ顔色

ノヨキヨト云フハ只酒ニ酔テ顔ノアカクナリタルラザルナリ白樂天ガ醉貌如霜葉雖紅不是春ト云ヘル后山ガ愁顏借酒紅ト云ヘルモ同ジ事ヲ云テ意異ナリ

金壁故事胡曾詠史詩云白蛇初斷路人



通漢祖龍泉血及紅不是咸陽將死解素

靈那哭月明中。

漢ノ高祖姓ハ劉名ハ邦字ハ季沛ノ

時ニ豐ノ西ノ亭ヲ過ルコトアリ其處ニ酒ヲ飲テ醉ニ乘  
シテ夜澤中ヲ經テカヘル前ニ行者アリ高祖ニ告テ曰ク  
路ニ大ナル蛇ヨコタハレリ行クコトナカレト云高祖醉  
テ曰ク壯士コレヲオソレンヤト云テ行クスナハチ劍ヲ  
拔テ蛇ヲ斬コロシテ過ル跡ヨリ來ル人其所ニイタレバ  
老タル嫗泣サケブアリ人其故ヲ問ヘバ嫗ガ曰ク吾子ハ  
白帝子也化シテ蛇トナツテ道ニアタル夕チマチ赤帝子  
ノタメニキラルト云テ嫗ハ何故ヘヤランカクレテ見ヘ  
ズ跡ヨリ行タル從者高祖ニ此由ヲカタレバ高祖心中ニ  
ヨロコビテ夕ノモシク思ヘリ秦ハ西ノ方ニアリ西金ニ  
アタル金色ハ白シ故ニ白帝子ト云高祖ハ火徳ヲ以テ王  
タリ色赤キヲタツトム故ニ赤帝子ト云詩ノ心ハ白蛇初

平田

斷トハ秦初テ亡テ天下ヒ口トナリタルヲ云漢祖龍泉  
トハ龍泉ハ劍ノ名也血及紅トハ蛇キリタルヲ云又二血  
ヌリク咸陽コトナリ不是咸陽トハ始皇咸陽ニ都ヲツル  
ナリ咸陽官ハ高祖ノタメニセメラレ破カ如クナリ  
ソレヲ前カドヨリカナシミタルハ白帝子ノ靈ナリ故ニ  
素靈那哭月明中ト作り也

文選二十七云陸機猛虎行曰渴不飲盜

泉水熱不息惡木陰

盜泉ト惡木ハ其名善ラズ君  
子其名ヲ惡ムユヘニ喉カハ

ケドモ盜泉ノ水ヲ飲ズ熱キ日ニテモ惡木ノ陰ニヤドラ  
ズ曾子車ヲ勝母ノ里ニカヘシ墨子ハ朝歌ノ邑ニ入ラザ  
ルモ此ノ類ナリ

成語考門天曰勢易盡者若冰山

天寶遺事曰揚  
國忠權傾天下

四方之士爭詣其門。進士張毅者陝州人也。力學有大志。氣高。大末嘗抵折於人。人有勸象令脩謁國忠。可圖顯榮。象曰。爾輩以謂揚公之勢倚靠如大山。以吾所見。乃冰山也。或皎日大明之際。則此山當誤人。爾后果如其言。○言ハ唐ノ揚國忠ハ揚貴妃ガ寵愛ノ餘光ヲ受テ。玄宗帝ニ出頭シテ奢リ極メテ。逆威ヲ振ヒ。天下ノ權柄ヲトル。故ニ四方ノ官人畏リナシ。我モ吾モト。其所ニ群集ヲナシ。揚國忠ガ氣ニチガハシト媚佞テ。恩ヲナス。時ニ張彖ト云フ人アリ。カメ學ンデ。博學大才ノ願ヘアリ。或人張彖ニ勸メテ。揚國忠ニ見ラナシテ立身ヲ願ヒ。榮花ヲ極メ玉ヘト云。張彖答テ。汝ガ輩ラ。揚國忠ガ勢ヒ太山ノ如シト思ヘリ。吾ガ目ヨリ見ル所ハ。乃ヒ冰山ノ如シ。俄日大キニ明カナル則ンハ。氷ノ解ルゴトク。必ズ其身ヲ亡サント云ヘリ。果ノ其言ノ如ク。安祿山ガ亂ニ。玄宗蜀ノ國ヘ落玉フ時ニ。揚國忠モトモニ供奉シテ。路次馬嵬ニテ誅罰セラレテ。揚氏ガ一門皆亡タリ。故ニ惡人君ニ用ヒラレテ。出頭シ。逆威ヲ振フ者ラ。冰山ト云ナリ。

書言故事卷六曰悔事不及曰噬臍

楚文王伐申。過鄧侯。曰。吾甥也。止而享之。驪甥聘。養甥請殺楚子。鄧侯弗許。三甥曰。亡鄧國者此人也。若不早圖。後君噬臍。○言ハ楚ノ文王ノ母ハ鄧侯ト兄弟也。故ニ楚ノ文王ハ鄧侯ノ甥ナリ。楚ノ文王申ノ國ヲ伐時ニ。鄧ノ國ヲ經テ通シ。玉フコト甚シ。コトニ驪甥聘。養甥ト云ヘル。三人ノ甥アリ。鄧侯ニ申シケルハ。能キ時節ナレバ。楚王ヲ殺サント請フ。鄧侯楚主ヲ殺スコトヲ許サズ。三人ノ甥ガ申シケルハ。鄧ノ國ヲ亡ス者ハ。必ス此ノ楚王ナラン。若ク早ク圖ツテ是ヲ殺サズンバ。後ニ君必スコレヲ悔ミ玉フトモ。口以テ腹ノ臍ヲ咬ムガ如ク。及ブベカラスト也。後ニ楚主果ノ鄧ヲ亡ス。年左傳意莊公。○成語考曰。悔事無成。曰噬臍。何及。

又云自增仇敵曰又生一秦

前漢書張耳傳曰。陳王欲拔武

臣等家相國房君曰。秦未亡。又誅武臣等家。此又生一秦也。○  
 言ハ。秦ノ二世皇帝ノ時。陳勝兵ヲ起シテ。秦ヲ亡サント  
 ス。故ニ所々ニテ合戦止ムコト無シ。時ニ陳勝趙ノ國ヲ攻  
 隨ヘントテ。吾手ノ下ノ武臣ト云者ヲ太將トシ。軍勢ヲ指添  
 テ。趙ノ國ヘ遣ス。武臣趙ノ國ヲ攻隨ヘテ。自ラ立テ。趙王ト  
 ナル。陳勝是ヲ聞テ。大キニ腹ヲ立テ。武臣。其外一家ヲ族滅  
 セント欲ス。時ニ臣下ノ房君ト云ヘル者。陳勝ニ諫テ曰ク  
 君。秦ヲ滅セント欲シテ。秦モ未ダ亡ビサルニ若シ。武臣等  
 フ誅罰セント欲スルトキンバ。仇敵必ス衆クナラン。是秦  
 尤モ未ダ亡ビズ。武臣又一ツノ秦ナラント云フ心ナリ。○敵  
 ノアルウヘニ。又敵ヲ説ク。或ハ不和ナル人アルニ。又別人  
 ト中ヲアシクスルヲ云ナリ。

成語考曰迎刃而解甚言事之易爲

杜預書

傳杜預曰。王者之兵。勢如破竹。數節之后。迎刃而解。○言ハ。晋  
 ノ杜預。武帝ノ命ヲ奉テ。吳ノ國ヲ討シ。時キ門出ヨリ。軍ニ

勝利ヲ得テ。都督孫翊ヲ主捕ケレバ。向フ所ノ孫翊。風ニ草  
 ノナビクガゴトシ。故ニ勝ニ乘テ。吳ノ都ヘ押寄。吳王孫皓  
 フ亡シ。吳ノ國ヲコトぐ。手ニ入ント。勇ミ進ミケルヲ。諸  
 將申シケルハ。吳ノ國ハ。モトヨリ太國ニテ侍レバ。百年已  
 來。度々合戦アリシカドモ。終ニ全ク手ニ入ルコト叶ハズ。  
 然ルニ此度。一旦勝軍ナリトテ。唯下戦ニテ。コトぐク攻平  
 ゲントシ。玉フトモ。ナカク叶フベキコトニアラス。一先引  
 取玉ヒ。重子テ大軍ヲモヨホシ。攻玉ハ。シカルヘカラシ  
 ト。諫メケレバ。杜預同心ナクシテ。申サレケルハ。昔燕ノ樂  
 毅。齊ノ國ヲ攻シトキモ。濟西ト云フ所ノ戦ニ。利ヲ得テ。時  
 フ延サズ。攻入テ。終ニ七十餘城ヲ手ニ入タリ。然バ味方ノ  
 兵威ヲフルヒテ。勢ニ乘テ。討ツ事ハ。タトヘバ。竹ヲ破カゴ  
 トクニテ。節ヲニッホドワリカクレバ。其アトハ。刃ヲ迎テ。  
 ヒトリト破ルゴトクナルモノナレバ。諸將ノ評議サラニ  
 同心ナシトテ。終ニ吳ノ都建業ニ攻入。果シテ孫皓ヲ生捕  
 吳ノ國ヲ亡シテ。大功ヲ立テタリ。世ニ行フ左傳ノ注者。是

レナ

成語考 人事 曰志在必勝 曰破釜沈船 史記

項羽本紀曰項羽乃悉引兵渡河皆沈釜燒廬舍持三日糧以示士卒必死無還心○言ハ楚ノ項羽鉅鹿城ヲ救ハレケル時乘來リシ船ドモヲ。釜マデモコトグク打破唯三セ陣小屋ドモヲ燒ハラヒ。釜マデモコトグク打破唯三

日ノ糧ノミヲ用意シテ秦ノ軍ニ向ハレケレバ諸軍勢何モ生テカヘルベキ頼ミナキコトヲ覺悟シタル故ニ各進

ミ勇シテ王離ヲ當テ大功ヲ立ラレタリ史記取意

前漢魏王豹ハ漢ニ降参シテ高祖ニ順セ忠功ヲツクス故

リト云魏王豹異シク思ヒナガシテ我ガ妻ノ薄氏ヲ出シテ

同

許負ニ見セシム許負此ヲ相シテ曰眞ニ此天子ノ后ノ人相ヲシカニアリト云魏王豹大キニ喜ビ意ニ我カ妻ニ后ノ相アルナラバ我レハ天子タルベシト思ヒ遂ニ謀友ヲ興シテ漢ニソムク是ニ於テ止コトヲ得スシテ高祖ハ韓信ヲ大將トシテ此ヲ征伐セシム遂ニ軍ニ打負テ韓信ニ生捕レ殺サル其妻薄氏モ生捕テ高祖ニ獻ズ薄氏類ヒナキ美人ナレバ高祖是ヲ愛シテ后トス後文帝ヲ生王ヲ薄太后是ナリ孺言故事卷九

本行經云昔海中ニツノ太蚪トテ角ナキ龍アリ其婦懷妊ノ猴ノ心ヲ食ハンコトヲ思ヘリ夫ノ蚪ガ曰ク此事甚ダ

叶ヒ難シ所以イカンナレバ我ハ海ニアリ猴ハ山ニ居ス今シバラク此願ヲ堪忍スベシ我隨分猴ヲ方便テ是ヲ求メテ得サスベシト時ニ蚪岸ニ出テ彼方此方ヲ慰メテハ後因ヲ結ビテ念比ニ交リナシタリ彼岸ニ大キナル林アリ

色々ノ果澤山ナリ。此ヲ其方ニ振舞ヒシ。我が背ニ上リ玉  
 へト云フ。猴於便トハ夢ニモ知ラス蚪ノ言ニ隨ヒ背ニ上  
 リ。汝ガ心ヲ食ハレコトヲ願フ。故ニ汝ヲ將來レリト朝笑  
 テ云ヒケレバ。猴此ヲ聞テ大キニ心ヲ潰シ。イカバセント  
 思案ヲ廻シ。詐リテ蚪ニ對テ本様ノコトナラハ何ゾ始メ  
 ヲリ我ニ知セ玉ハザルゾ。イト安キ御用ナガラ。我心ハ適  
 娑羅樹ト云フ木ノ上ニ留メ置テ。今コトニナシ。然ラバ我  
 ヲ岸ニ放チ玉へ。歸テ心ヲ持テコトニ來ルベシト云ヒケ  
 レバ。蚪聞テ此モ方便トハ知ス。則チ岸ニ復ス。猴喜ビ跳リケ  
 テ。大樹ニ上ル。蚪久シク待ドモ下ズ。時ニ蚪アハリ待チカ子  
 猴ニ告テ速カニ下リ來レト云。猴朝笑テ偈ヲ説テ曰。汝類誰  
 計校雖能寬而。心智慧甚。效汝但審諦自思。計校シテ我ヲ欺  
 無心矣。汝トハ蚪ヲ指テ云言ハ蚪カ心ニ計校シテ我ヲ欺  
 キ。心ヲ取ントハ工ハ。能ク寔ニ回ラストイヘドモ。蚪カ  
 本心ノ智慧狹キニ依テ。心ヲ樹ノ上ニ留置テ。此ニナシト



イハ實ニ思ヒ我ヲ海中ヨリ還スコソ。誰カケレ。番カニ思  
 ラ回シ。竹春ヨ。一切衆生ノ羽毛鱗介ノ類。誰カ心ヲ去テ無  
 ト云フコトアラシクシテ也。  
 大度經將蚪作名義集也  
 卷三出タリ

昔漢ノ陳平若キ時。落人トナリ。劔ヲモ帶セズシテ。舟渡ノ河  
 ヲ乗ケルニ。舟人陳平ヲツナリ。劔ヲモ帶セズシテ。舟渡ノ河  
 トハミヘズ。大將覺タリ。定メテ合戦ニ打負落ラル。身ト  
 見ヘケレバ。定メテ金銀ヲ腰ニ付テアルラン。時分ヲ見計  
 殺シ取ベキト目ヲ付ル所ヲ。頻テ陳平賢者ナレバ。其眼ヲ  
 シテ見取テ。舟人ニ向ヒ云ケルハ。多ク人ノ往來ニテ。際ナ  
 ク。船ヲユキ玉ヒ。サゾヤ疲玉フラン。其若キ者ノコトナレ  
 バ。聊代マイラセ。堅シノ間ナリトモ。休セ申サントテ。其ミ  
 帯ヲトキ。衣類ナグステ。真裸ニナリ。袖ヲツ取テ。コギケレ  
 バ。舟人は是ヲ見テ。サテハ。彫ニ金ハナキント思ヒ。頻テ其念ヲ  
 ハラシ殺サザリシト也。  
 史記陳平傳ニ見ヘタリ

湖州ノ商人ニ趙三郎ト云フ者。周生ト云フ友ト。何ノ日南京  
 へ商ニ行ヘシト。約束シケルガ。巳ニ其日ニ趙三官夜深ク  
 出テ。可口ヘ行キ。水手ノ張潮ト云者ノ舟ニ乗テ。同道ノ周  
 生ヲ待ケルガ。時分早出タルニヨリ。周生モイマダ來ラズ。  
 シバラク待内ニ。睡リテ。催シテイリタリ。其透間ヲ覗テ。水  
 手ノ張潮腰ナル金ヲ目ガケ。趙三官ヲ海ニ沈メ。サテ詭リ  
 高軒ヲカキ。能子イリタルフリヲシテ居タル所ヘ。同道ノ  
 周生來レリ。趙三官ガミヘザレバ。未ダ來ラザルト思セ。水  
 手ノ張潮ヲユレ。急ギ趙三官ヲヨビテ。マイレトテ遣シケ  
 ルニ。張潮サラヌ。体ニテヨセニ行キ。趙三官ガ門ヲ敲キ。其  
 妻ヲ呼起シ。趙三官ハイカニシテ。晚ク出テ玉フゾ。呼ニ來  
 タリト云ケレバ。妻ヲドロキ云ケルハ。趙三官ハ二時モ先  
 ニ出ラレケルガ。未ダ舟ニ乗玉ハズヤ。其ハ不思議ナルコ  
 トカト云ヒケレバ。張潮又立歸リ周生ニ是ト云。周生膽ヲ  
 潰シ。舟ヨリ上リテ。趙三官ガ妻ニアヒ。三日ガ間。共ニ方  
 々ヲ尋ケレドモ。行跡ヲ知サリケレバ。周生心ニ思フニハ。若

シ此者ノ出ザルトキハ。必ズ我難ニナリ迷惑スベシ。人ニ  
 云レヌサキニ。此方ヨリ申シ上クベシト思ヒ。此趣キヲ有  
 ノマ、ニ書計付ケ。奉行所ヘ訴ヘケレバ。何レモノ評議ニ  
 趙三官ガ妻乱ナルコトアリテ。異男ニ殺サセタルナルベ  
 シト。推量セラレケレドモ。サシテ其證據モナカリ。ソル所  
 ニ。揚詐事ト云奉行。此趣ヲ委ク問辨。斷セラレケルハ。水手  
 ノ者呼ニ來レルトキ。門ヲ敲。趙三官ヲ呼ズシテ。女房ニ  
 聲ヲカケ云ケルコト不審ナレバ。急キ水手ヲ僉議スヘシ  
 トテ。色々拷問セラレケルニ。終ニ白狀シテ。沈メシ所ヲモ  
 云テ。死骸サガシ出セリト。智囊ニ見タリ  
 昔戰國ノ時ニ楚ノ懷王。令尹昭陽ヲ大將トシテ。魏ノ國ヲ攻  
 玉フニ。終ニ打勝テ。其大將ヲ殺シ。ハ城ヲ手ニ入ケレバ。此  
 勢ニ乘ジテ。又齊ノ國ヘ取テカ、リケル時。齊王難儀ニ思  
 召。陳軫ト云者ニ談合セラレケルニ。陳軫申上ケルハ。此ノ  
 軍ヲ止サセンコト。何ヨリ安キ事ナリトテ。急キ昭陽ガ方ヘ  
 行テ申ケルハ。御身ノ故郷。楚ノ國ノ法ニハ。大將ト成リ。軍

二出テ勝利ヲ得タル者ニハ、イカナル高官ヲカ賜ハルソ  
 ト問フニ、昭陽答ヘケルハ、サヤウノ功臣ニハ、令尹ト云フ  
 高官ヲ賜ルナリト云フトキ、陳軫申シケルハ、サラハ唯今  
 御身ノ上ノコト譬ヲ以テ語り申スベシ。楚国ニ春ノ神ヲ  
 祠ル者アリ。其舍人ニ酒ニ危ツカキヲ添テ贈ル者アリ。舍人相ヒ  
 謂テ曰ク、此酒ヲ兩人シテ飲ムトキンバ足ス。一人シテ  
 飲ムトキンバ餘ル。イザ地ノ上ニ蛇コウヲ畫テ、早ク畫キタル  
 者、此酒ヲ一人シテ飲ムベシト云フ。二人此ノ義尤トモシカ  
 ルベシトテ、互ニ畫ク内ニ、一人ノ者早ク出來テ酒ヲ取、飲  
 シトセシガトテ、モノコトニ足ヲ畫ント云テ、足ヲ畫ク内  
 ニ、晚ク畫タル者、其酒ヲ奪ヒトリテ、蛇ニ足ハナキモノナ  
 ルニ、足ヲ添玉ヘバ蛇ニ非ズト云テ勝タリ。御身元來楚ノ  
 高官ニテ、魏ノ國ヲ打テ、大功アルトコロハ、早ク蛇ヲ畫タ  
 ル如クナルニ、又齊ノ國ヘ取テカ、ルハ、蛇ニ足ヲ添ルガ  
 如シ。若シ齊ノ國ニテ、軍ニ負玉ハバ、必ず前功ヲ無ニナシ  
 五フベシト云ヒケレバ、昭陽聞テ、尤ト思ヒ、其マ、軍兵ヲ

ツレテ、楚國ヘ歸陣シ  
 ケルトゾ、戰國策取意  
 昔齊王淳于髡ト云者ヲ使者トシテ、楚ノ國ヘ鵠カヲ籠ニ入テ  
 贈玉フ。途中ニテ、鵠ヲニガシケルニ、淳于髡空ク歸ラズシ  
 テ、アキタル籠ヲ持、其マ、楚ノ國ヘ行キ云分ナシノ辨舌ヲ  
 以テ、吾ガ咎ニ成ザルヤウニセント思ヒ、楚主ニ申上ケル  
 ハ、齊王ヨリ吾ヲ使者トシテ、君ヘ鵠ヲ贈ラレ侍ルガ、アル  
 川ノホトリヲ通リケルニ、此鳥水ヲ見テ飛ヒマハリ吞ン  
 コトヲ願フ体ニ見ヘケレバ、忍ブニ堪ス。籠ヨリ取出シテ  
 水ヲ吞セケルニ、其マ、空ニ飛去。又無念ナル次第ニ思ヒ、  
 腹ヲカキ切テ、死ナント思ヒケレドモ、世間ニテ鳥類故ニ  
 人ヲ死ナセタリナド、評判仕リ侍ラバ、且バ君ノ名ノ出シ  
 モ如何ト思ヒテ止ヌ。又鵠ハ世ニ澤山ナル鳥ナレバ、別ノ  
 鳥ヲ買調ンモ安ク侍レドモ、其ハ君ヲ欺ク道理ニテ誠ノ  
 道ニ非ズ。他國ヘ欠落セント思ヒ侍レドモ、若シ奉樣ニ仕  
 リ侍ラバ、兩國ノ君不覺ノ因ヲ申シ、屈ルコトナラズ。故ニ

其、是アキタル籠ヲ持テ罷リ越シ。齊王ノ使ノ趣申シ  
居ケ。イカヤウニモ咎ニ行ヒ玉フヲ待奉ルヨシヲ申上ケ  
レバ。楚王反テ御感コトニ淺カラズシテ。齊王ハ信アル士  
ヲ持玉ヘルモノカナト。大キニ稱美シ。玉ヒ色々ノ音物ヲ  
玉ハリ又。鵠ヲニカシナガラ辨吉ヲ以テ。褒美ニアツカリ。  
國ニ歸リケルトゾ。澁訃傳取意六

墨田

# 訓蒙要言故事卷之九

## 訓蒙要言故事卷之十目錄

雜門下

- 丁初 殺蟻得銀
- 丁一 古鏡鑄兔
- 丁二 鏡中婦人
- 丁二 探春之宴
- 丁三 智永筆塚
- 丁三 子文為神
- 丁四 改葬樊噲
- 丁五 能知獸語

- 丁一 鯉有古鏡
- 丁一 蜀王古鏡
- 丁二 查老魂歸家
- 丁三 陳氏作筆
- 丁三 蒙恬作筆
- 丁四 不葬吾子
- 丁五 辨蝨所生
- 丁六 蝨代主命



丁六 鞭取稻人

丁七 孫壽野火

丁七 三教圖贊

丁八 妓圍避寒

丁八 馬生蓮花

丁八 性好潔

丁九 舊人新器

丁十 揚文公母誕鶴

丁十 二富家踈財

丁十一 張道人異

丁六 魯般石橋

丁七 斗覆一鼠

丁七 父攘羊

丁八 蛇酒化身

丁八 陸雲笑癖

丁九 譏好古器

丁十 坡谷前身

丁十 天繪亭記

丁十一 風和尚

丁十一 夢食鱸

丁十三 花月之神

丁十三 揣囊知墨

丁十四 死地燐火

丁十五 平生忤父

丁十五 小兒紙寫

丁十六 肥瘦相戲

丁十六 戲人性急

丁十七 明年同歲

丁十七 解字無當

丁十八 鍼熨道人

丁十三 明皇好惡

丁十四 烏白馬角

丁十四 變孕為男

丁十五 胎中變相

丁十五 晏子辱楚

丁十六 招飯相諍

丁十六 噦出四臟

丁十七 好占便宜

丁十八 易用无字

丁十八 愛遊仙枕

十九 受魚失祿  
 十九 靈龜曳尾  
 廿 半兩錢  
 廿 短綆汲深  
 廿 愚於西東  
 廿 拾契待富  
 廿 自比美兒  
 廿 弗取受答

十九 知已愚惑  
 廿 墜車無死  
 廿 飯袋子漢  
 廿 欲金不見人  
 廿 放生示恩  
 廿 衣變狗吠  
 廿 以兒取人  
 四卷 父讐不戴天

目錄終

訓蒙要言故事卷之十

雜門

殺蟻得銀

鯉有古鏡

事文要玄曰易惟效ト云者揚瓿山ニ語テ曰銀一百五十兩ヲ蟻  
 二食ハレタリ其蟻ヲ殺シテ爐火ニテ燻化シテ見レバ銀  
 一百五十兩ヲ得タリ三年ヲ過テ衡州ノ守トナリシ時余  
 泗泉ト云者咄ケルハ陸致齋粵ニアリシ時庫奉行銀三千  
 兩ヲ失フ簿籍ノ内ヲ掘テ百餘數石ヲ殺シテ煎化スレバ  
 銀一千五百兩ヲ得タリ然レバ蟻ハ銀ヲ食フモノナリ  
 小説曰元相國ト云人江夏ヲ鎮スル時秋ノ夕黃鶴樓ニ登テ  
 ハルカニ江濱ヲナガメヤレバ光アリテ星ノ殘ルガ如シ  
 人ヲヤリテ機子ヲ見セラケルニ其所ニ釣船アリ漁人  
 ニ逢テ鯉魚一尾ヲ得タリ外ニ光アル物ナシカヘリテ此  
 由ヲ申シケルニ命シテ其鯉魚ヲ剖見ルニ腹中ニ古キ鏡  
 ニアリ古錢ノ大サノ如シ醜ト面ト相合ス皆ニハ雙龍ア

古鏡 鑄兔

リ小キナリトイへ丘鱗鬚爪ミナ具レリ是ヲ磨瑩テ見  
レバ光カ、ヤク。公スナハチ巾箱ノ中ニ置テ審トス。相国  
薨シ玉ヒテ鏡  
モ亦ウセケリ

墨客揮犀曰慶曆年中二獨ノ官者罪アサテ維揚ニ流レタリ。  
一ツノ古鏡ヲモチタリ徑一尺アマリアリ是禁中ノ舊物ナ  
リト云鏡ノ背ニ兔ヲ鑄ツケタリ其形ハナハダ巧ナリ滿  
月ノ夜ニ至ルゴトニ鏡ヲモツテ月ニ向テアツレバコレ  
ヲ照ス時スナハチ兔ノ形鏡ノ中ニ現ズ  
入イカナル道理ヲキハノ知イナシ

蜀王 神鏡

九国志曰蜀王宗壽常ニ一鏡ヲ得タリ。クモツテ見ルベカラ  
ズ。エ人ヲシテコレヲ瑩シムルニ猶クシテ見ルナ  
シ。或日取出シテコレヲ見レバ其光カ、ヤケリ中ニ小兒  
ノアゲマキナルガ青キ衣ヲキテ市舎ノ中ニ生スルヲ見  
ル。則人ヲヤリテ是ヲ問ハ果シテ小兒アリテ來テ曰其鐵  
鏡ハ神物ナリ公コレヲ我ニカヘスベシト則是ヲアタフ

鏡中 婦人

レバ長揖シ礼ヲナ  
シテ去リケリ

事、文要玄曰江南ノ魯思邈ト云者ノ女一日鏡ヲヒラキテ假  
粧セントスルニ夕チマチ一婦人ノ鏡ノ中ニアルヲ見ル  
髮ヲサバキ蹴ニシテ獨ノ嬰兒ヲ抱キテ立リ。日々ニ是ヲ  
魯思邈其婦人ニ向ヒテ汝ハ何者ナレバ鏡中ニウツルヤ  
ト問へバ答テ曰君ガ女前身ハ建昌縣ノ録事ノ官ノ妻ナ  
リ。然ルニ録事我ヲ妾トス。年ヲ踰テ此子ヲ産タリアル時  
夫ノ留主ヲ待テ我ト此子トヲ君カ女ヒソカニ殺シテ深  
ク井ノ中ニカクシテ石ヲ以テ是ヲウヅミ又其夫ヲアザ  
ムイテ曰妾ハ子ヲツレテ逃去ヌト。前生ノ事ナリトイへ  
ル今コレヲ報セシ給ナリ其女、ホドナク死シタリ  
又云毘陵ノ北、地橫林ト云所ニ查老ト云者アリ年五十ヲ踰  
テ死シタリ死シテ後其魂家ニカヘル其形ヲ見ルナク  
物言聲アキラカニシテ空中ニキコユ。マサシク查老ガ聲  
ニマギレナシ。其家ノナスノシナク一々ニ此ヲ言フツ

查老 魂飯 家

(一四)

トビラカナリ。或ハ家ノ中ニ用ル器ナドノ失ル一アレバ。其アル所ヲサス。盗人其姓名ヲ云他人來リテ其聲ノ聞テ平生存命ノ時ノ如クニ思フ。賓客ヲ迎ヘ。宴ヲマフクルゴトニ一席ヲ別ニ布テ主位ヲマフケ查老ガ席トス客ヘノ挨拶酒ヲス、ムルナド查老カ聲分明ニシテ、イケル時ノ如シ。又シフシテ人亦コレシアヤシトスル者ナシ如此ナル一三年ナリ。一日本人ニ語テ曰我今ナガク去ルベシト云テ遂ニ其聲夕ヘタリ

探春之宴

天寶遺事長安士女春時鬪花以千金市名花正月半乘車跨馬遍郊野為探春之宴。長安貴遊子弟每至春時遊宴供帳於園囿中。隨行載以油幕或遇陰雨以幕覆之。盡歡而歸。唐ノ玄宗ノ天憲ノ比天下太平無事ナリケル故ニ正月半ニナレバ花合セヲシテタカハシムルニ千金ヲステ、花ヲ買求ノケリ車ニ乘馬ニマタガリ郊野ニ出テ花ヲ尋ヌ探春ノ宴ト云。長安ノ富貴ナル人ノ子弟園ニ幕帳ヲマフケテ花ヲ賞シ酒盛ヲシ遠ク行テ花ヲ見ルニハ油幕トテ

陳氏作筆

トウユヲ引タル幕ヲ持セ若兩ニ逢トキハ幕ヲオホフテ遊宴シ日ヲクラシテ酒ニ酔ツブレカヘルナリ。類說曰宣州ノ陳氏ト云者能筆ヲ結上手ナリ其家ニ傳テモトモヨク筆ヲ作レリ唐ノ柳公權其子ニ筆ヲ求ム宣城スノハチニ管ヲアタフ。其子ニ語テ曰柳學士書ヲ能スルカ如シ。此ニ管ノ筆ヲ留タラバ能書ナルベシ若モトシカヘスアアラバ常ノ筆ヲアタフベシト云。未ダイクバクナラヌシテ柳公權氣ニイラスト云テ筆ニ管ナガラカヘシ。別ノ筆ヲ求陳氏曰サキニアタフルニ管ハ王右軍ニアラザレバ用ルアタハズ。柳學士ハ

智永筆塚

尚書故實曰僧ノ智永ト云者ハ王逸少ガ子孫ナリ書ヲ學ブ一七年ヲツメリ秃筆トテキレ筆ヲ入タル甕千バカリアリ皆數石ヲイル、甕ナリ後ニ是ノ地ニ瘞ミタリ號シテ筆塚ト云リ

蒙恬  
作筆

(二)

舊約古今註曰牛享問曰古有書契已來便應有筆也世稱蒙恬造筆何也答曰自蒙恬始作秦筆取以枯木為管以鹿毛為柱羊毛為被所謂管毫非兔毫竹管也非謂古筆也又問曰筆有管何也答曰形者赤漆取史官言以赤心記事也  
蒙恬ヨリ以前ニモ筆ハアリシナリ蒙恬始テ村木ヲ軸トシ鹿ノ毛ヲ心トシ羊毛ヲ被トスルヲ作レリ古ノ兔毫竹管筆ニアラズ形管ト云ハ赤ウルシニテヌリタル筆也史官ガ用ル也心ノ色ハ赤キユヘニ丹誠ノ心ヲ以テ記スル也

子文  
為神

幽明錄曰蔣子文ト云者廣易ノ人也嗜酒好色子ニ自言フ我死シタラバ神トナルベシト漢ノ末ニ秣陵ノ尉トナル賊ヲ追テ山ニ至ル賊ト戰フテ額ヲ傷クスナハチ印綬ヲトキテ額ヲユハヘテシバラクアツテ卒ス吳ノ先主ノ初其モトノ下ヅカサ子文ヲ路ニテ見ル白馬ニ乘テ白扇ヲ執徒者アマタツレタリ見者ヲドロキ走ル子文コレヲ追

不葬  
吾子

テ謂テ己我ハ此地ノ神トナルナリアマ子ノ百姓トモニ告テ我々ノニ祠ヲ立ベシカラスンバ大ナル禍ニ逢ベシト云其歲夏大ニ族疫アリ百姓オソレヲノクヒソカニ是ヲマツルモノアリ巫ニノリウツテ曰虫ヲシテ人ノ耳ニ入テ災ヲナスベシト果シテ虫アリ其郡ノ人ノ耳ニ入トキハスナハチ死ス其地ノ守孫氏イマダ不信ヨツテ又巫ニウツテ曰大火ヲ起シテ災ヲナスベシ是歲火災大ニヲコリテ民屋多ク焼失ス施テ官舎ニ及ブ孫主大ニヲ下ロキ使者ヲツカハシテ子文ヲ封シテ中都侯トシ其子緒ヲ長水校尉ノ官トシ皆印綬ヲ加ヘラルスナハチ祠ヲ立テ其靈ヲマツル今建康ノ東北ニアル蔣山是ナリコレヨリ疫疠ナガク息ム百姓大ニ祭ヲナセリ  
博物志曰澹臺滅明之子溺死於江弟子欲收葬之滅明止之曰此命也與螻蟻何親與魚鱉何仇弟子曰何夫子之不慈乎對曰生為吾子死非吾鬼遂不收葬澹臺滅明ガ子江ニ溺レテ死セリ弟子トモトリアケテ葬ントイヘバ滅明コレヲ

川蒙恬言故事

卷一

四

止メテ曰、土ニ葬リテ、螻蟻ニセ、ラシタルモ、江ニステ、魚鱉ニク、ラハシタルモ、同シ事ナリ。彼レ親ミ此ヲ仇トスベカラストテ、遂ニヲサメズ、弟、子ドモ不審ニ思ヒ。夫子何ゾ慈悲ナキヤトイヘバ、存生ノトキハ、吾子ナリ死シテ鬼トナレバ、吾子ニアラズト云

天中記曰、劉邕ト云者ハ、劉穆カ孫ナリ、性嗜瘡痂、常ニ食フ。其

味、鱈魚ニ似タリト云。アル時孟靈休ト云者ノモトヘユキケルニ、靈休灸瘡ヲウレヒテ、瘡痂多ク床ノ上ニ落タリ。劉邕トリテユレヲ食フ。靈休大ニ驚ク。劉邕ガ曰、性ノ所嗜ナリ。靈休カ瘡痂イマダ落ザルモノヲ悉ク禿テコレヲトリテ食ハシム。後ニ靈休ヨリ何最ト云者ニアタフル書曰、劉邕向顧見嗽遂舉體流血ト云リ

改葬 樊會

劉氏鴻書卷七十六曰、長安ノ待賢坊ト云處ニ、隋北、大將軍史、萬歲カ宅アリ、初、其宅ニ、鬼怪ノモノ有トテ、居者ハ死シタ

三田

リ。萬歲ウタガハシク思ヒテ、此宅ニ住ケリ時、二夜半ニ至テ、長タカク大セニ壯ナル男、衣冠ヲタビシクシテ來ル。萬歲何者ゾト問ニ、男曰、我ハ漢將軍樊會也。我が墓君カ宅ノ厠ニチカシ、常ニ穢シキ臭アリ。他所ニ移シナバ必ズアツク君ニ報ズベシト云。萬歲聞テ、イカニモ他ニウツスベシト。君曰、君ハ萬歲ガ曰、汝多ク人ヲトリ殺セルハ、イカナルユヘクト。答テ曰、我コレヲ殺セルニハ非ズ。皆オソレテ死セルナリ。因テ掘テ、其骸骨ヲ得テ、他所ニ改メ葬ル。後又來リ謝メ曰、君ハマサニ將軍トナルベシ。我必ズ君ヲ助クベシトテ、カヘル。後ニ萬歲、隋ノ將軍トナレリ。賊ニアフゴトニ、スナハチ鬼兵來リ助クルヲボフ

辨風 所生

又云、張公外紀曰、東坡閑居ノ日、二秦少遊ト夜酒宴ス。東坡風ヲ捫得テ曰、此是風ハ垢膩ノ生ズル所也。秦少遊ガ曰、此カ

能知 獸語

ラバ理ノ曲タル者ハ一席ヲ設ケテ勝負ヲアラハスベシ  
 酒宴スギテ歸ルトキ泰少遊佛印ニユキテ門ヲ扣キ相尋  
 テ曰今、日夕々々東坡ト相會ノ風ノ生ズル始ヲ辨ズ東坡  
 日垢賦ニ生ズト。愚イヘラク綿絮ヨリ生ズト。アラソヒ遂  
 ニトケズ即チ吾師ニ問テ決セシト約ス。明日モシ此事ヲ  
 決セバ綿絮ヨリナルト答ヘ玉ヘコレニ勝トキハ後當作  
 杯鉈會ト云テ。ステニ去レハラクアツテ東坡復至ル同ク  
 前事ヲ言ス子ガハクハ風ハモト垢賦ヨリ生ズト答ヘ玉  
 へ勝トキハ冷淘ヲ作ラント。約束シテカヘル。明日果ソ  
 會ス此事ヲイヒ出ス佛印ノ曰此曉ヤスキ事ナリ風ハ垢  
 賦ヲ身トス絮毛ヲ脚トスル也先冷淘ヲタベテ後ニ罇鉈  
 ヲクフベシト云フ皆手ヲウツテ大ニ突テ酒宴アナシ樂  
 ノリ按ズルニ冷淘ハ水花冷淘ト云日本ノ切麥ノ類ナリ  
 罇ヲモツテキルトアリ罇鉈或ハ不托トモ書ウドンノ類也  
 翰府名談曰白龜年ト云者李太白カ遺書一卷ヲ得テコレヲ  
 ヨムソレヨリ九天ノ禽ノ語ヲワキマヘ大地ノ獸ノ言ヲ

風代 主命

四

ヨク聞知レリ。後ニ潞州ニ遊ブ太守召テコレヲ問處ニ鶴  
 二羽飛脚シテ飛ユク太守ノ曰彼何ノ言ゾヤ答テ曰城西  
 ノ民家ニ廩アリ餘粟コボレテ地ニアリ乎テ是ヲ食ハシ  
 ム太守人ヲツカハシテ見セシムレバ果シカリ。又廩ニ  
 ユキテ馬ヲ見ルニ馬首ヲ仰テイバフ。問テ曰此何ノ言ヤ  
 答テ曰槽中ノクヒモノ熟シテ不可食ト云時近清明社ヲ  
 祭ルガタノニ羊十餘頭ヲカリ出ス。後ノ一羊ムチウテト  
 モ。ハタラカズ。太守問テ曰羊不動ハ有説乎答テ曰羊腹ニ  
 羔アリコレヲ産テ後ニ死ニ就ベシトノ願ナリ太守羊ヲ  
 留メラル。一月餘アリテ果メ子ヲ産タリ

鴻書卷九十三曰薛嵩ト云者性慈悲心ニシテ物ヲ殺スナ  
 シ。虱虱トイヘテ殺スナシ。夕夢ミルヤウハ被ノ上ニ  
 虱甚タ多シ漸変ジテ一寸バカリノ人トナル薛嵩ニ向テ  
 君ノ命ヲ殺サバル一人ノミニ非ズ君ガ惠ヲ受ル久  
 シ。今夜君急ニアヤウキアリ吾等其報息ニ命ヲタテマ  
 ツルベシト云遂ニ被ノ上ニツラナリ行シバラクアツテ

報取 稲人

魯般 石橋

皆傷ダリ薛嵩ヲドロキテ目ヲサマシケレバ燈火尚明ナ  
 リ傍ニイ子タル童子ヲ呼テコレヲ見レバ被上ニ縊ヲ引  
 タルヤウナル血ノ痕アリ横ノ廣サハ一尺アマリナリ  
 則虱ノ死ニタルナリ。薛嵩イタマシク思ヒテ其由ヲシラ  
 ズ後二聞ハ是夜刺客アリ名劍ノ利ヲ甚シキヲ抜テ薛嵩  
 ヲサシテ血ヲ視テ殺シタリト思ヒテカヘリ其主人ニ語  
 リテシトメタリト云テ歡下甚シ明日是ヲ見レバ恙ナシ  
 是虱薛嵩ニカハリテ殺サレケルナリ

群談採餘卷四曰晉陶侃荊州ノ刺史トナリシ時出アツブ。忽  
 人ノイマダ熟セザ糶一把ヲ持ヲ見ウケタリ陶侃其糶ハ  
 何ニカスルト問。答テ曰汝スデニ田ヲツクラズシテ戲ニ  
 人ノ糶ヲヌスムハ。イタヅラ者也ト云テトラヘテコレヲ  
 報ム

湖海新聞後集卷七曰趙丹城ノ南ニ石橋アリ是スナハ子魯  
 般ト云ル工ノ上ヲガ作りシナリ此橋ステニナルトキニ張

孫壽 野火

斗覆 一鼠

神ト云者カ駢ニ聯テ橋ヲ過ルトテ笑テ曰人此橋ヲ石堅  
 シテ柱サカレナリト云我過ルトキハ震動スベシトテス  
 テニ橋ニ登リケレバ揺動テ傾クカタチノ如シ魯般下ニ  
 アリテ兩ノ手ヲ以テカ、へ定メテモトノ如ク堅固ナリ  
 至今橋ノ上ニ張神ガノルトコロノ駢ノ頭ト尾ト四足ノ  
 痕アリ橋ノ下ニハ魯般ガ兩手ノ掌ノアト。アキラカニア  
 リ。古老相傳ヘテイマダ書ニ  
 ノコサズ故ニシルスト也

法苑珠林曰唐ノ顯慶年中ニ平州ノ人孫壽ト云者アリ海濱  
 ニ出テ游獵ス。忽野火モヘ出テ草木コトクク焼失スルヲ  
 見ルニ草茂タル一叢ノコリテ不焚其中ニ獸伏シテアル  
 カト疑ヒテ行テ窺視レハ一極ノ金剛般若經ヲ得タリ其  
 カタハラニ一人ノ僧死シテアリ顔色不変シテ  
 イケルカ如シ火モヘザルハ此故ナリ

大明蔡復賞孔聖全書三十四ニ孔子斗ヲモツテ一鼠ヲ覆テ  
 問テ曰此斗ノ覆フトコ口生物カ死物カ内ニイクバク箇



三教圖贊

父竊

カアル衆コタフル者ナシ諸弟子ノ中ニ類田年モツトモ  
 ワカシ前ニ近イテ答テ曰此斗ノ下ニアルハ此生物ナリ  
 ノゾイテニガスナカレ九ツノ子アルベシト云揭開テ  
 コレヲミルニ果シテ鼠九子ヲ生タリ母ト共ニ十箇ナリ  
 孔子顧テ弟子ニ謂テ曰問一知十吾與女俱不知コレ蓋論  
 語ニ類田聞一知十ノ説ニヨツテ撰テ撰スル者ナルベシ  
 又云全書卷宋ノ理宗皇帝ノ朝ニ待詔馬遠ト云者三教圖ヲ  
 畫黃面ト老子ハ跣趺シテ中ニ生ズ龍翁ノ如シ黃面ハ釋  
 尊ナリ吾夫子ハ礼ヲ前ニナシテ伏ス内璫故令コレヲ作  
 テ圖ヲナシテ贊ヲ作ラシム即コレニ贊シテ曰釋氏跣坐  
 老聃傍睨吾夫子絶倒在地言心ハ絶倒ハ物ヲカシキ時  
 ニ笑ヒテ倒ルハヲ云也贊ノ詞微妙ニシテ婉ナリトテ  
 ニカナヒケルトナリ  
 贊ハ古心江子遠作也

邶代醉卷十一曰呂氏曰春秋楚國ニ直躬ト云者アリ其父  
 羊ヲ竊タリ是ヲ官ニ告ルニ官トラヘテ誅セントス時ニ

直躬吾ヲ誅シテ父ヲタスケ玉ヘトテカハル上ヘ此由ヲ  
 ウカソクニ曰父羊ヲヌスメルヲ子告タルハ類ナキ信也  
 父ヲ誅セントスルニ子コレニ代ルハ類ナキ孝也トテコ  
 レヲユルシ玉ヘリ孔子聞之曰異哉直躬之為信也一父而  
 載取名焉直躬之信不若無信此以直躬  
 為人姓名論語ニハ直躬トヨメリ

蛟圍

蛇酒

馬三蓮花

天寶遺事唐申王冬月ニ寒甚シケレバ官女ノ媚目ヨキ者ヲ  
 酒ヲ作リテ飲ナバ可療即チ黑蛇ヲ求メテ甕中ニイレコ  
 レニ加ルニ麴麩ヲモツテシヲサメ置ニ數日ノ間蛇聲タ  
 ュルヲナシ熟スルニ及ンテ香氣ハナハタハダシ是ヲ飲  
 ケルニシバラクシテ悉ク化シテ水トナリタリ唯毛髮ハ  
 カリノコリケリ心得ベキナリ

劉氏鴻書卷四十三嗜好部云支遁コノミテ馬ニ乘其モツト  
 秘藏ノ馬ヲ名ツケテ類加ト云カツテ橋下ニテ類加ニ

陸雲  
笑癖

性好  
潔

古器  
譏好

六臣

新器  
舊人

水ヲ飲シム馬ノイバリスル處ニ夕チマ子蓮花ヲ生ジタ  
 リ。人コレヲアヤシミテ其橋ヲ飲馬橋ト名ヅケタリ  
 同卷云陸雲ト云者笑ノ癖アリ。カツテ司空ノ官張華ニ譏ス  
 張華ハ鬚ノ多キ男ナリ其鬚ヲユハヘテ袋ヲ以テ盛タリ  
 陸雲コレヲ見テ拜ヲナスニヨバヌ笑ヒ倒タリ。後ニ自  
 練經ヲ壞リ服シテ船ニノリケルニ其影水ニウツルヲ見  
 テ笑タラレテ水ニ  
 墮テ溺死ニタリ  
 代醉編ニ庾炳之ト云者潔白奇麗ヲ好ム士大夫嗤ニ行ヌレ  
 ハ客門ヲ出ルヲ見テ即チ其跡ヲ掃除シ席ヲヌグヒ寢ヲ  
 洗フ。又王思微ト云者潔白ヲ好ム。ツカヒ者衣服ヲタム  
 ニ悉ク白紙ヲ以テ手揩ヲツマシム。宅中ノ柱ニテモス  
 コシク物ニケガル、時ハ人ヲシテコレヲ洗ハシムレド  
 モ猶イサギヨカラズトシテ是ヲ能シム。ソレニテモ意ニ  
 カ、リケレバ遂ニ  
 柱ヲトリカヘタリ

因話錄ニ宋ノ江夏ノ王羲之茶ト云人古キ道具ヲ嗜テ古器ヲ  
 重子求ム常ニ朝士ニ逢テ是ヲ求メラル。侍中ノ官ニ何最  
 ト云者ハシノ多古器ヲ贈ルニ猶求メテ不已何最腹ヲ立  
 テ道中ニテ狗ノ糞ト積鼻ト拾ヒ來リ錡ヲ以テ擊テコ  
 レヲ送ル。後ニ曰今奉李斯狗糞相如。積鼻是ハ秦ノ丞相李  
 斯咸陽ノ市ニテ腰斬セララル。時スゲニ獄ヲ出テ顧ミテ  
 予ニ謂テ曰吾欲與若復牽黃犬俱出上蔡東門。遂投鬼豈可  
 得乎トアリ。又前漢ノ司馬相如ト云者臨邛富人卓王孫ガ  
 女卓文君ヲ盜ミテ妻トシ。盡ク馬車ヲ賣テ酒店ヲシケル  
 ニ令文君當壚相如自著犢鼻褌。滌器於市中トアル語ニ日  
 リテ古フドシ狗ノ糞  
 トヲ送リタルナリ  
 書經卷五盤庚上篇古ノ賢人遷任ト云者ノ言ヲ引テ曰人ヲ  
 用ルニハ舊ヲ求ム器ハ非求舊惟新此意ハ天下ヲ治ムル  
 君ノ人ヲ用ルニハ世臣トテ代々事ヲナシ。政治ニ鍛鍊シ  
 タル者ヲ高官ニ舉テ政事ヲ執行セシタルヨシ器ハ舊ハ尙

川  
卷  
九

レテ長ク用ニ夕、ズ新キ器ヲ用タルコソ。ヨケレトナリ  
斯言ヲ思ヘハ天下ノミニ不限、總ニ家人ヲ従ヘル程ノ家  
ニモ物ニ熟シ事ニ鍊タル人ヲ不仕、シテ却テ若輩未熟ノ  
者我ニ阿媚フヲ私意ニ契ヘバトテ使フハ家ヲ敗ル基ナ  
リ器ヲ求ムルニモ世ニ無類ヲ貯ヘタリト他人ノ耳目ヲ  
驚サン為ニ多ノ金銀ヲ費シ膏ヲ索テ此ヲ嬉ムハ僻事ナ  
リ○事文類聚別集卷二十、曰秦國ニ一人ノ癖者アリ何ニ  
無隔、古物ヲ求ムルヲ好ム價貴ヲ不厭必購求ムルヲ世  
無隱或人敗席一枚ヲ持來テ其者ノ門ニ踵リ此ハ昔魯哀  
公ト云君孔子ニ教ヲ聞ントテ新ニ孔子ノ為ニ布玉ヲ席  
ナリ此ヲ賣ント云彼人大ニ喜ンテ大分ノ田地ヲ與ヘ易  
取レリ時ヲ踰テ又枯タル竹杖一本ヲ持來者アリテ先ニ  
孔子ノ席ヲ田地ト易玉ヲト聞ク其ハ去今未遠我此杖ハ  
昔周大王北狄ノ難ヲ避此策ヲツイテ郊國ヲ去時用ヒ玉  
ヲ物ナリ孔子ヨリモ前ナル一數百年斯古物ヲ求レトナ  
ラバ償物ハ何程ゾト問フ此ヲ聞テ誠モナリトシ大ニ喜

ンテ悉家財ヲ傾ケ與ヘテ此ヲ得タリ其後又漆塗ノ椀集  
ヲ持來ル者アリテ席ト杖ヲ求玉ヲト聞ク然レハ此等ハ  
共ニ周代ノ物未足為古我ヲ持來ル椀ハ古舜ノ始テ漆塗  
ノ器ヲ造出シ玉ヲ時ノ物ニシテ周ヨリ遙ニ以前ナリ我  
ニ償フニハ何ヲ以テスルヤト云愈古物ナリト喜ンテ遂  
ニ己カ居宅ヲ虚クシテ予ヘ此ヲ得タリ偕三ノ器ハ得タ  
レ氏居宅財、審悉、喪ヒ衣食ノ調モ無体ニナレ氏猶好古ノ  
心不廢三器ヲ捨ルコトセズ然レ氏不食シテハ身不立ニ  
依テ身ニハ衣公ノ席ヲ披手ニハ大王ノ杖ヲ持舜ノ造レ  
ル椀ヲ抱テ市中ニ出テ乞丐トナリ羅齋行言ニモ衣食父  
母俗ニ命ノ懸太公九府ノ錢ヲ  
ラハ地又胡ノ錢一文ヲ懸ト乞

被谷前身

春渚紀聞卷一云世傳山谷道人前身為女子所說不一近見陳  
安國省幹云山谷自有刻石記此事於涪陵江間石至春夏為  
江水所浸故世未人有摸傳者刻石其畧言山谷初與東坡同  
見清老者清語坡前身為五祖戒和尚而謂山谷學士前身一

(七回)

女子我不能詳語後日學士到涪陵當自有告者山谷意謂涪陵非迂實不至聞之亦以憤々既坐黨人再迁涪陵未幾幾一女子語之云某生誦法華經而志願復身為男子得大智慧為一時名人今學士某前身也學士近年來所患脹氣者緣某所葬棺朽為蟻穴居於兩腋之下故有此苦今此居後山有某墓學士能啓之除去蟻聚則脹氣可除也既覺果訪得之已無主因如其言且為再易棺修掩既畢而脹氣不藥而除東坡ハ五祖ノ戒禪師ノ再來ナリ山谷ハ一女子ノ生前ニ法華經ヲ讀誦セシ功徳ニヨツテ男子ノ大學者ト生レ來ルナリ

揚文公鶴誕

同卷云揚文公ト云者其母コレ産トキ兩鶴翅ノ一塊物ヲ掩ヒタルヲ生タリ母アヤシミテ急ニコレヲ漢ノ流ニスラキテ裸之則兩翅ヲ出ル時其祖母ヲシミテスミヤカニヒイ子カヘリテ啼樂家ヲド口キアヤシシ常ノ人ニ非ズトシテソダテ養ヒケリ宣和年中ニ余韓也其五世ノ孫徳裕

天繪亭記

ト云者ノ家ニライテ揚文公カ八九歳ノ時病ヨリ起テ郡官ニ謝スル一塔ヲ見ルニ屬對ハ老タル書生ノ作レルカ如ク筆蹟ハ童稚ノワザト見ヘタリ

春渚紀聞卷二曰昭州ハ山水ノ佳絶ナル所ナリ郡圃ニ亭アリ天繪ト名ツク來建炎年中ニ呂丕ト云人守護トナレリ天繪ハ金国ノ年号ニチカキヲ以テ是ヲカヘント思フ時ニ徐師川昭州ニ來ル呂丕請テ亭ノ名ヲ求ム又シテ遂ニ名ツクルヲ不得又范滋ト云者ニ名ヲ乞トキ天繪ヲカヘテ清輝亭ト名ツク一日徐師川杖ヲツイテ亭ニ過リ新橋ヲ見ルニ清輝トカケリ復ムカシノ亭ノ記ヲ積塚ノ中ニ得タリスミヤカニ記ヲ書タル石ヲ滌シメテコレヲ禱ルニスナハナキ清輝寺ノ丞ガ作ル所也其畧曰余擇勝得此亭名曰天繪取其景物自然也後某年某日當有俗子易名清輝可為一咲范滋ガ名ヲ易ル日ヲ考ルニ嘉慶モタガフナシトナリ

二富家財

前書同卷曰宋宣和年中二朝廷燕雲關ヲ收復ス郡縣ニ仰セ  
テ錢ヲ家々ヨリ出サシム海州懷仁縣ノ揚六秀才カ妻劉  
氏ト云者其夫死シテ丁子アリ俱ニ其家ニスメリ素ヨリ  
富ルヲ夥シ貧民トモ官錢ヲコハレテ難義ニ及ワラ見テ  
即チ縣守ニ請テ我家財十萬緡ヲ出シテ家々ノ錢ヲ出ス  
テヤメシム縣令欣然トシテコレニシタガフ人夫ヲツ  
カハシテ劉氏ガ家ノ錢ヲ運ビトラシム數日ノ中ニ其庫  
藏ヲ空シクスルヲ七間ナリ因テ其地ヲ掃除シ佛供ヲマ  
ククルヲ三晝夜ナリ其明ル日其屋間ヲ視レハ錢復モト  
ノ如クニ堆ク滿タリコレヲカゾヘテ見レハ十萬緡アリ  
紅麻ヲ以テツナギタリ五緡ゴトニ一ト小木ノ牌ヲツケタ  
リ其牌ニ麻青ノ二字ヲ書ス觀者オドロキアヤシミイカ  
ナルユヘト云フヲ知フナシ或者是ヲサトリテ曰青州麻  
真外ガ家大ニ富リ麻十萬家ト号ス豈非神運其錢至此耶  
ト云劉氏ヒソカニ人ヲ青州ニヤリテ相尋ルニ麻氏ノ民  
アリ三代留リ錢十萬緡ヲ庫ニヲサメタリ一タコレヲ失

尚風和

其故ヲシラズト云劉氏スナハチ人ヲシテ此由ヲツヅ  
サニ麻氏ニ告テコトク錢ヲ還サント云麻氏驚キ嘆嗟  
シテ劉氏カモトヘ使ヲヤリテコレヲ謝シテ曰吾家ノ福  
退キテ錢者カ有徳ニ飯ス是天ノアタフルナリ今復此ヲ  
取カヘサハ天理ニ違フベシト云テサラニウケズ劉氏モ  
又曰我錢ヲ散シテ國用ニ助ク今復錢ヲルヲ如此我コレ  
ヲ貯ルノ一不宣ト云テ即チアハチク貧民ニホドコシ佛道  
勸守ヲ修メ一錢モ家ニ留ルヲナシシカレバ家々ス富  
リト云昔唐明皇顧視一龍橫亘南山而首尾皆具詢之左右  
侍臣或有見有否者所見者俱止見龍之一身未見全龍也帝  
曰朕聞至富可敵至貴令召王元寶視之元寶奏稱所見與帝  
一同然則所謂富家大室者所積之厚其勞可以此封君而錢  
足以使鬼神則於剝取之道唯恐無間若二家之視十萬緡之  
績於天授人與之際其處之如此盖有可嘉者

同卷ニ金陵ト云所ニ僧アリ常ニ酒ヲ嗜ミテ狂ノ如シヨ  
ク人ノ禍福ヲ言サストコ口神ノ如シ人コレヲ屬和尚ト

張道人異事

同卷三曰張道人ト云者福州福青人ナリ樵ヲ業トス能人ノ  
禍福ヲ云フ見ルガ如シ一夕都城ニ失火アリ火サカンニ  
シテ郡官吏卒クセクニ術ナシ環視テスベキテダテヲシ  
ラズ或人ノ曰張道人ヲ呼ベシト郡官ノ曰張道人何知  
攸之事ヤト云スデニ火都署ニセマレ急ニ張道人ヲヨブ  
ニ忍テ來テ郡官ヲ長揖シテ礼ヲナシ又火ニ向テ敬ヲイ  
タシ同音ニ心火滅九火滅ノ六字ヲ講ス即チ病ニ水ヲク  
ミテヒツサゲ禪擔ニノボリ騰躍シテ飛方如シ水ノカ  
ル處火ヲヨブナシシバラクノ中ニ火シツマル人アヤ  
シミ鬘バズト云フナシ其外異事ハナハダ多シ悉クシル  
スベカ  
ラズ

夢食

同卷云吳興漢ハ魚ノ美ナルヲ他郡ノ及ブトコロニ非ズ必  
ズ其所ノ者膾ヲ作ルヲ以テ勤トス其料理スル者ヲ膾匠  
ト云沈志老ト云者ノ嗤ケルハ我外祖丁學士君ハ湖久ナ  
リトイヘ平生膾ヲ食フヲ好マスト一日忍テ夢ケルハ  
登對シテ殿廡ノ間ニ休ミケルニ膾縷一盤ヲ賜ル即コレ  
ヲ食スルニ美ナルヲハナハダシ既ニ夢覺テ夕チマチ其  
味ヲ思フタマク御人鮮鯉ヲ其子ニ送レリ取テ膾ニ作  
リ盡ク食フソレ日リ後毎日膾一器ヲ食フ一歳アマリシ  
テ復夢ニ登對ス膾ヲ賜フ初ノ如シ食シタハリテ夢覺  
タリソレ日リ翌日鼻ニツキテ遂ニ膾ヲ食フヲ得ズ身  
ヲ終ルマデ  
嫌ヒケリ

花月之神

同卷云建安ノ章園老ノ室ハ冝興ノ潘氏ノ好也婚日カタチ  
スグレタリ園老ニ嫁シテ數歳ヲ經ズシテ卒ス身ヲ終ル  
ノ日室中ニ蝶ノ飛リ驟シ其始タル時モ亦カクノ如ク  
ナリケルトカタル既ニ盡席ヲ設ケテ遺像ヲカクノルニ

明皇  
好惡

揣摩  
知墨

「蝶飛來テ遺像ニトバマリ。久シテ飛去サテ其後忌日ゴ  
トニ像ヲカクレバ。冬モ夏モ必ズ蝶飛來リテ濺然タリ其  
家は、女ハ花月ノ  
神ナルヲ知リ

同卷、八日唐ノ明皇ヲ玄宗雅ヨリ羯鼓ヲ打テ好ミ玉ヲ嘗待  
詔ノ官ヲシテ琴ヲ鼓シム。曲未ダ終ラザルニ急ニ人ヲシ  
テ寧王ヲ呼シメ羯鼓ヲ取來テ我耳ノ穢ヲス、グベシト  
ノ玉ヲ噫羯鼓ハ夷國ノ樂ナリ琴ハ治世ノ音也治世ノ音  
ヲ以テ穢トシテ荒夷淫ノ樂ヲ奏シテ穢ヲ除ベシト  
玉ヲ何明皇聰慧絶如此甚クシ張曲江ガ忠鯁先見之言  
ヲ棄テ用ヒズ安祿山ヲ寵愛シ抑ルヲ甚クシ。天寶ノ禍ヲ  
リテ國祚再ビコロモノハ實ニ幸ナリ

同卷、日潘谷ト云者郡下ニアリテ墨ヲ賣テ業トス。余何轅童  
子タリシ時先君ニシタガツテ武學直舍ノ中ニ居ス潘谷  
常ニ至リテ墨ノ筐ヲ負テ酒ニ酔自ラ吟咏シテ來ル墨ヲ  
笏ヲトレバ錢百文ヲトル或ハ筐ヲ探テ墨ノヲレ

者ヲ取ニコレヲアタヘテ客サカナルヲナシ其膠ヲ用ル  
テ五兩ノ制ニ過ズ。濕ニ逢テモヤブル、ヲナシ後ニ言傳  
ケルハ潘谷郊外ニ出テ酒ニ酔テ經日カヘラズ。家人コレ  
ヲ尋子求ルニ拈拈ノ中ニ坐シテ死セリ。体皆柔軟也其尸  
解セルカト疑ヒケリ東坡先生嘗贈之詩有「朝入海尋李  
白空看人間盡墨仙」之句蓋言其為墨隱也山谷道人云潘生  
「日過余取所藏墨示之潘谷隔錦囊揣之曰此李兼晏軟劑  
不易得又揣一日此谷二十年前途者令精力不又無此墨也  
取視果其小握子墨盤者云可入  
藥用亦藉其真氣之力也

烏白  
馬角

昔秦始皇六國未平天下ヲ未從ヘザル時燕國ノ太子丹ヲ秦  
ノ國ニ入質ニ輪居此ヲ遇フ甚無礼ナリ丹亦國ニ歸ン  
「ヲ思ヒ始皇ニ請望ム始皇此ヲ歸スマシギ為ニ烏頭白  
馬生角乃可ト云丹悲ニ不堪天ニ作テ祈レバ烏ノ頭白地  
ニ俯シテ禱レバ馬角ヲ生ズ始皇言ヲ變シガタク許シテ  
燕國ニ遣ス然レ敵國ノ太子ナレハ此ヲ國ニ歸ス「ヲ厭

死地 燐火

変孕 為男

平生 忤父

胎中 変相

其歸路ニ機發橋ヲ設置テ丹ヲ陷ントス。丹橋ニ到ル時  
然モ橋發レズ關門ニ到ル時門未開丹雞鳴真似ヲシケレ  
ハ衆ノ雞真雞鳴ゾト心得テ一同ニ鳴ク此ニ依テ門開ケ  
遂ニ國ニ歸ルヲ得タリ張華博物志卷八ニ載タリ

合戰シ多ク其命ニアラズシテ人馬ノ死亡シタル處ニハ其  
血凝テ年ヲ積テ後ニモ其血變化シテ燐トナル此物地ニ  
著草木ニ著テ露ノ如クシテ光リアリ其體ヲ不可見行  
若此ニ觸ラレバ人體ニ著テ光アリ此ヲ異拂拭ヘハ無  
數ノ光トナリテ分散スルヲ甚シ分散スル時豆ヲ炒ガ如  
キノ声ヲナス暫驚ゴナフシテ靜ニ住レバ滅ルナリ此ニ  
逢人後ニ心忽々トシテ燐ヲ失フ

婦人懷妊ノ時女子ヲ厭ヒ男子ニ變シ得ンヲ欲セバ懷妊  
ノ後未三月ナラザルニ夫ノ衣冠ヲ著テ平且ニ并ラ左ニ  
遶ルヲ三遍我影ヲ詳ニ水ニ映ハセテ去時後ヲ顧ルヲナ  
ク又他人ニ此事ヲナスト知スルヲナカレ必男子ヲ生ナ

リ博物志卷十二

續博物志卷九云下人ノ子ヂケ者アリテ平生父ノ意ニ忤フ  
父死セトスル時遺言ニ我ヲ必水中ニ葬ムト云此實  
ニ水中ヲ好ムニアラザレ非常ニ翻語者ナレバ定テ此ヲ  
モ戾フテ土中ニ葬ルベシト思フニ依テナリ然ルニ父死  
シテ後彼子心ニ諺ルニハ我平生父ノ仰ニ逆フ今下生ノ  
終ニ至テ可違フニアラズトテ水中ニ沙ヲ築此ニ葬ヲナ  
モリト此始終生死ノ間  
マデ猥ル曲者ナリ

同卷十云計然曰人ハ命ヲ天地ニ受ケ變化シテ生ル母胎中  
ニ宿ル中一月ニハ膏生ス二月ニハ脉三月ニハ胚四月ニハ胎  
ノ狀ノ如ク四月ニハ胎水中鰓ノ胎ノ如キヲ云五月ニ胎  
六月ニ胎血氣變ジテ肉トナリ肉為脂脂為骨ヲ云七月ニ  
形ヲ成就ス八月ニハ形動九月ニ  
ハ大キニ蹠グ十月ニシテ生ル



小兒  
紙鷲

晏子  
辱楚

(十四)

言家言古事

同卷十云今ノ紙鷲ヲ引テ上ルハト兒ニ口ヲ張此ヲ望

視セテ内熱ヲ淺サンガ為ナリト兒ハ熱氣多シ盛

晏子春秋曰齊景公ノ臣晏子ハ形短楚國へ使者トシテ行時

ニ楚人晏子ガ短ヲ侮テ小門ヲ大門ノ側ニ造リ此ヨリ入

ントス晏子此ヨリ不入シテ狗國ニ使スル者ハ狗門ヨリ

入ル狗門云今我ハ楚國ニ使ス狗門ヨリ不可入ト云楚王

ニ見ルニ及テ王晏子ガ形ヲ見テ輕ジ齊國ニハ可然器量

ヲ具ヘタル人モナキヤト問晏子聞テ齊ニ臨淄ト云者ア

ゾリ袂ヲ張ハ帷ヲナシ汗ヲ揮ハ雨ヲナス此長ヲ入テ何

使シ不肖者ハ不肖ノ王ノ國ニ使ス嬰ハ晏子不肖ナリ是

故ニ楚王ニ使スト云晏嬰坐ニ就時嬰ガ連來ル者ヲ懸俄

ニ縛ラセタリ楚王怪ミテ此ハ何ト謂フト問ヘバ晏子

ガ荅ニ齊人盜ニ坐ラルト云王曰齊人ハ善盜スルカ晏

子聞テサレハ橘ハ江北ニ生ズレハ枳トナル橘枳葉ハ相

似テモ其實味不同此水土変スルニ依テナリ今此者齊ニ

肥瘦  
相戲

招飯  
相詭

生レテ盜ラセズ楚國ニ入テ盜ラナス此楚國ノ水土盜ラ

ナサシムルニアラズヤト云王笑テ汝ヲ侮ラントレテ及

テ我ニ病ヲ楯

取レリト云

宋史曰沈昭略ト云者性狂者ナリ王景文カ子約ニ逢テ汝是

狂昭略大ニ笑テ瘦ハ肥タルニ勝

レリ狂ハ又愚癡ニ勝レリト云

魏士語錄曰郭震一日任介ニ書簡ヲ贈テ來日晶飯ヲ薦

ラシテ請ト云任介晶飯ノ薦ト云フヲ不曉トモ約ノ如

ク往ク日中ニ至テ糲飯糲飯鹽ト三種ノ糲ノミニテ餘ニ

別ノ糲ナシ郭問フ何此ヲ晶飯ト云ヤ郭震荅テ白飯白蘆

菹白鹽三ツ合ス晶飯ニ非スヤト云任介無味ト厭ヘ凡勉

強テ此ヲ食フテ退ク他日ニ其返報ヲセン為ニ郭震ニ書

簡ヲ贈テ來日糲飯ヲ來テ食セヨト云遣ス郭震亦約ノ如

ク往ク日中ヲ過レ凡遂ニ一種ノ糲ナシ郭茫然テ此ハ如

川家言故事

卷十

十六

戲人  
性急

四臟  
出

加

明年  
同歲

何ナルト問ヘバ任介ハ已前ニ其旨言遣スト云郭震彌  
然テ何ト謂フヤト問フ任介カ返答ニ飯モ亦毛蘆菹  
モ也毛鹽モ也毛此便甚飯ナリト云郭震大ニ笑テ退キ又世  
俗ニ物無テ毛ト云

事文類聚別集卷二十二曰或人性寬緩ナルアリ冬日二人ト共  
ニ爐ヲ圍テ其人裳履火ニ燒ルヲ見テ日斯ニ一ト事アリ  
見ル言ハシニ多シ此ヲ言ストスレバ汝ノ性急ナルト恐  
ル不言傷汝大ニ然ハ此ヲ云カ是カ不言ガ是ヲラシヤト  
裳ヲ燒人此ヲ聞テ何事ゾト問ヘバ火汝ノ裳ノ燒ルトナ  
リト云遠衣ヲ收メテ火ハ滅タリ其人火大ニ怒テ此ヲ見ル  
ト又シカラバ何早道サルヤト云ヘバ彼寬緩ナル人ノ  
日我汝性急ナリト云ハ箇様ノ心ユヘカト云急トハ氣  
同卷云艾子大酒ヲ好テ醒ル日ナシ家人此ヲ憂テ共ニ談合  
シテ中々諫メテ止ムトニアラズ儼ク害アルト用テ勝  
サハ誠トズルニ足ント云又大ニ飲テ噦ス家人密ニ其ノ  
勝ヲ取來テ噦ノ中ニ糲ヘ入テ此ヲ示シテ凡人ハ五臟ヲ

具足シテ命ヲ保ツ今公ハ大ニ飲ニ因テ一臟ヲ出ス止  
四臟ノミ餘レリ如此ニシテ何ゾ生ンヤ生ハ人ノ所好以  
後酒ヲ禁テ生ヲ全フ存フ泥ヤ四臟ニシテ死ヲ畏ルベキ  
トニアラ  
ト云

同卷云艾子外ニ出行シ趙国耶戰ノ道上ニ至ル二人ノ媪  
相與ニ道ヲヨクテ譲ル時一人ノ媪問フ汝ハ年幾ゾ七十  
歳ナリト答フ問者ノ曰我ハ今六十九歳ナリ明年ハ汝ト  
同年ニナラント云此七十ノ者來年又七十ニナルト  
不辨ナリ本朝ニ項間兄弟居宅ヲ別ニシテ世ヲ營ム者ア  
リ或人其弟ニ問フ汝ハ凡ト歳幾ノ違アリヤト云ヘバサ  
レバ我ヨリ兄ハ四年益シタリ然レモ細ニ論ズレバ却テ  
十四五年兄ヨリモ我ハ八年數積ルト云此ハ不審ナルト如  
何ナレバ送リ候兄ハ不仕合ニテ十八年モ此歳モ取損  
營左右モ送リ候兄ハ不仕合ニテ十八年モ此歳モ取損

川原集言故事

十七

好占 便耳

解字 無常

易 用 无字

鍼 耐 道 人

三田

ジタルト云ハル、ア  
ルニ依テ如此ト云ヘリ

同卷云或人常ニ他ト物語スルニ何ニテモ我為ニ便耳ナ  
ルヲ好テ云或時他人ニ對テ我被ハ汝カ被ラ蓋ハシ

汝カ種ハ我種ヲ蓋ヘ被ハ上ニ蓋フテ損スルナシ汝若  
錢アラバ我ト共ニ使ハ種ハ上ニ蓋ナクンバ汝ガ錢ヲ使フ

ベシ我山ニ上ル時ハ我足ヲ扶ケヨ山ヲ下ル時ハ汝  
カ肩ヲ我扶ケン他ア山ヲ下ル時肩ヲ扶スガトハ我カ扶

ラシメヨ我妻アル時ハ我未ヲ寝ンズル為トシテ我ヲ睡  
死ルヲ汝ヨリ後ナラン我此誓ヲ背クナラバ汝死ルヲ我

ヨリ先ナルベシト云

同卷六云宋王荆公晩年ニ及テ文字續造ノ義理ヲ解トテ好  
ム然モ私説ヲ用テ蓋フ多シ或人覇王ノ覇ノ字何ソ西

ニ從ヒ作ルヤト問ヘバ荆公カ料簡ニ西ハ方域ニ於テ陰  
ニ當ル陰ハ物ヲ殺ス春秋及戰國ノ時覇者ノ所為成仁義

ヲ不用殺殺ヲ主トシ己カ威ヲ壯ニスルヲ用ルカ故  
ナリト云或人此ヲ聞テ覇字西ニ從フニアラズ兩ニ從フ

ト云ヘバ王荆公又如時兩化之取ト云荆公カ等穿鑿ヲ務  
テ決定ノ論ナキヲ類皆如此又鶴林玉露天集卷三云東坡

波ノ字ノ義ヲ荆公ニ問荆公曰波者水之處ナリト東坡又  
曰然ラハ滑ノ字ハ水ノ骨ナラント笑フ

鶴林玉露地集卷三云周易ノ中ニ無字皆作无玉述无字ノ義  
ヲ解テ天西北ニ屈スルヲ无トス東南方ノニラ春夏ニ配

ス此時陽氣ノ伸ルナリ故ニ春夏ハ萬物敷榮ヘルナリ西  
北方ノニラ秋冬ニ當テ此時陽屈ス故ニ萬物老死ス物老

死スル時ハ無シト云ヘリ如此  
字ヲ解スルハ意味アリト

同卷五云宋朱文公足疾アリテ苦ノリ粵ニ道人アリテ朱文  
公ノ為ニ鍼灸ノ術ヲ施セリ依此旋苦輕心安キテ覺ヘラ

ル大ニ喜ンテ禮物厚ク遣リ其上ニ詩作リテ贈リ玉フ其  
詩云幾載相携藉瘦筇一鍼還覺有奇功出門放杖兒童笑不

川 氏 五 言 文 集 卷 十 一 鍼 還 覺 有 奇 功 出 門 放 杖 兒 童 笑 不

三十八

愛遊 仙枕

是從前詩翁道人此詩得大儒二我瘳致ヲ歎美セラ  
ル、一フ喜ビテ不經時シテ他處ニ去リ又去テ數日ナラ  
ザルニ朱文公ノ疾大ニ作リ鍼セザル前ヨリモ甚ク彼道  
人何ニヤアリト。人ヲ起シ尋子サセラルレ行方知ザリ  
キ於是朱文公大ニ歎玉ヲ某此人ヲ罪セントニハアラズ  
但我與ヘシ詩ヲ索還ン為ナリ此詩ヲ持往テ多クノ人ヲ  
鍼シ知ラン一ヲ恐ル、ガ故也ト仰セラル此一事ニ就テ  
モ君子小人仁不仁ノ志ハ可觀  
太原王仁裕開元遺事曰唐玄宗ノ時龜茲國ヨリ枕一枚ヲ進  
ム其色ハ瑪瑙ノ如クニシテ温々トシテ如玉此ヲ枕トス  
レバ仙人境界ノ十洲三島及ビ四海五湖マデモ目前ニ對  
フガ如ク夢中ニ感ズ玄宗此ヲ愛シ玉ト遊仙枕ト名ケ玉  
ヲト○范大史集曰趙宋ノ代司馬溫公學問ニ志厚フシテ  
繼晷終夜書ヲ讀眠ヲ除カン為ニ圓木ヲ用テ枕トシ此ヲ  
警枕ト名ク少モ睡レバ枕轉テ忽覺ム乃起テ書ヲ讀リト  
アリ思讀枕トスル所ハ同シケレトハ夢ヲ深クシテ心

受魚 失祿

知己 愚惑

ヲ非義ノ上ニ樂ム一ハ夢ヲ警テ志ヲ聖經ニ厚フス其心  
ヲ所用是非如何ゾヤ況ヤ玄宗ハ四海ノ主トシテ萬機ノ  
重キ任アリ國政ヲ忘レテ非義ニ淫ス天寶ノ蒙塵天子帝  
身ヲ專ラニシ其德ヲ積ム後二三公ト  
ナリ天下ヲ治メ玉フハ宜ナラズヤ  
事文類聚別集卷十七性行部載ス或人鄭國ノ宰相ニ魚ヲ  
リケレバ宰相辭シテ不受或人不思議シテ公ニハ兼テヨ  
リ魚ヲ嗜玉フニ依テ此ヲ鮠ル然ルニ受玉ハザルハ如何  
ント云ヘバサレバ我魚ヲ嗜ムガ故ニ不受魚ヲ受レバ  
祿無以食魚不受得祿終身食魚ト答ヘタリ此他人ノ賄賂  
ヲ受ルガ故ニ必依怙アル時ハ政ニ失アル一ヲ思ヒ身心  
正シク守ル  
ノ謹ナリ

莊子外篇天地篇曰自己ノ愚癡ナル一ヲ知者ハ廣大ニ惑者  
ニアラズ自己ノ惑ヲ知者ハ廣大ニ惑者ニアラズ大ニ惑

十四

靈龜曳尾

者ハ一生涯ノ間其惑不解大ニ身ヲ終ルマデ靈知ナシ此  
二厲人夜半ニ至テ子ヲ生リ急遽火ヲ取テ其子ヲミル彼  
自己ノ厲ヲ知テ生ルトコロノ子モ又我ニ似ンカト恐カ  
故ナリトアリ莊子此譬ヲ謔トハ世人咸己カ愚惑ヲ知ル  
ベト如此ナラバ靈知明ナル  
ベント教示サン為ナリ

莊子外篇秋水篇云莊子俗世ノ交リヲ厭テ濮水ニ釣ヲ垂テ  
游フ時ニ楚國ノ王莊子ハ才徳アル者也ト聞テ大夫ノ位  
ニ居ル臣下二人ヲ使トシ莊子ヲ頼テ楚國ノ宰相ニセン  
ト云遣レタレバ莊子釣竿ヲ持テガテ顧ルルモノナクシテ  
二人ノ使ニ云ケルハ我嘗テ楚國ニハ神靈ノ龜アリ死シ  
テ後三千歳ニ及ブ王此ヲ中レル筈ニ入レテ廟堂ノ上ニ  
藏メラルト聞ク此龜ノ心ニハ縱令死スモ骨ヲ留テ貴  
レントヲ願ハンヤ但生テ尾ヲ塗中ニ曳ントヲ可願ヤト  
問フ使者聞テ生ヲ全フシ身ヲ無事ニ保ツトコソ願フヘ  
ケレ何ゾ榮耀ヲ貪テ死ニ陥ルトヲ好マンヤ生曳尾於塗

墜車無死

半兩錢

中ト云莊子聞テ然ラバ我楚國ノ宰相トナラバ榮耀ヲ受  
ルトトイヘ氏生命ヲ苦シメ乱世ニ出テ身ヲ廢ルトハ不好  
我亦將曳尾於塗中ト答ヘタリ○此故事ヨリ智徳アル人  
ノ避世韜名隱逸スルヲ靈龜曳尾ト云  
列子卷上仲尼篇云人醉ル時車ヨリ墜チテ疾トアリテモ死  
スルトナシ其身ノ骨節他人異ナルトナクシテ墜テモ不  
死トノ異ナルトハ醉者ハ始車ニ乗ルトモ不覺又墜ルト  
モ不知死生ノ二ツヲモ不辨事物ニ觸テモ驚キ懼ルト  
ヲモ其胸中ニ不入唯酒氣盛ニシテ精神中ニ全ク外ニ不  
散乱バナリ酒力ヲ假テ精神全キトヲ得ル者ダニモ如此  
況ヤ全キトヲ天ニ得ル人ニ於テヤ聖人ハ天徳ヲ得テ  
内全ク無心ニシテ己ヲ忘ル故ニ萬物ノ力ヲ以テ聖人ヲ  
傷ルト  
ナシ

宋羅經論鶴林玉露人集卷三云今世ニ一様ノ古錢アリ其文  
ニ半兩トアリ輪郭ナシ醫家用テ藥トス史記ヲ考レバ前

漢文帝ノ時ニ鑄タル錢ナリ其比吳、鄴、通ナド皆私ニ錢ヲ鑄ルヲ得タリ。其錢多流傳シ今ニ至ルマデ不繼其輕重。中ニ適ヘリ今ノ錢ト大略相似タリ五銖貨泉ノ錢ニ視レバ又一二百年モ先ナリ五銖貨泉ハ今ノ錢ニ比レバ稍輕シ

飯袋子漢

書言故事卷三荆湖近事ヲ引テ曰李唐代末ニ馬殷ト云者湖南ニ根城ヲ架ヘ自楚王ト稱シテ奢侈ヲ恣ニス彼ガ一族及ビ其僕從マデ勢ヲ盛ンニシ人ヲ輕慢リテ聖賢ノ書ヲ讀ムコトナク文武ノ道ニ意ヲ留ルコトナシ唯酒食ニ佳味ヲ盡サンコトヲ思フ時人此ヲ酒囊飯袋ト云○禪門ニ坐禪觀法ニ志疎ニシテ酒食ニ耽ル僧ヲ飯袋子漢ト云ハ馬殷カ故事ニ根テ云ナリ

短綆汲深

淮南子卷十七說林訓短綆不可以汲深器小不可以盛大非其任也ト云事アリ短綆ヲ用テ深井ヲ汲コトナラズ小器ニ大ナル物ハ盛レヌナリ此ハ短慮ヲ用テ深智ノ人ヲ不可量小見解ヲ用テ廣大ノ理ハ會得セラレヌト云ノ譬ナリ列子卷下說符篇ニ載ス昔齊國ノ人欲心ヲ發シ金ヲ欲フ者アリ早朝ニ衣冠ヲ正シク飾ヘ市中ニ出テ金ヲ鬻者ノ所ニ日本ノ雨替屋適テ其金ヲ攫テ逃去ル其所ノ奉行職ノ下此ヲ見付適テ遂ニ捕ヘ汝何如ナレバ人多キ中ニテ他人ノ金ヲ攫去ルヤト問ヘバサレバ取金ノ時ハ心金ノミニ迷フ故ニ不見入ト云○本朝ノ俗語ニ欲ニハ目ガ見ヘヌト云此ナリ○又淮南子卷十七說林訓云逐獸者目不見太山嗜慾在外則明所蔽ト云モ列子ノ說ニ同ジ

欲金不見

愚於東西

淮南子卷十齊俗訓云古者民童蒙不知西東○本朝ノ俚語ニ人ノ暗昧ナルヲ西東サヘ不辨ト云ハ此等ノ語ニ根シテ云トラン然レハ淮南子ノ本意ハ唯一向ニ暗昧ナルヲ云ハントニアラズ上古ニハ其風質朴ニシテ庶事階級ヲ立ルコトナク枝葉ニ不拘自然無為ニシテ治マル故ニ東西南北ノ名數モナキト云ハン為ナリ

放生  
示息

拾契  
待富

衣變  
狗吠

自比  
美兒

訓蒙要言故事

卷十

列子卷下說符篇二載趙國邯鄲ノ地ノ民正月元旦ニ當テ  
 生ル鳩ヲ其國ノ執權簡子ニ齎ツル簡子大ニ悦ビ民ニ褒  
 美ヲ厚ク與ヘタリ簡子ガ家ニ客アリ其悦ビテ賜ヲ厚ク  
 與ヘタル所以ヲ問フ簡子答テ曰正月元旦ニ生物ヲ放ツ  
 ハ好生ノ仁心アリテ物ニ恩愛ヲ施ス一ヲ示ス故ナリ客  
 聞テ難ジテ曰此恩ヲ施シ物ヲ愛スルニ似テ却テ恩愛ノ  
 道ニ不當今國中ノ民皆簡子ノ放ツヲ好マル、懼ト知ル  
 ガ故ニ我モ我モト競テ此ヲ捕ヘルニヨツテ羅ニ罹リ籠  
 ニ苦ミテ死スル一多シ汝若彼ガ生命ヲ全フセントナラ  
 ハ民ヲ禁メ此ヲ捕ル一ヲ止シニハ不若捕ヘサセテ放ナ  
 ラバ放ツ恩ヲ以テ捕フルノ苦又死ニ迫ラシムルノ過ハ  
 補ヒカタシト簡子至極ナリト背ヘリ

同篇ニ載ス宋國ノ人道路ヲ遊行スル時ニ他人ノ遺タル契  
 ヲ拾ヒ其文ヲ見ルニ幾許金ノ數ヲ書載タリ喜テ家ニ持  
 歸リテ此ヲ藏置熟ト其金ノ高大方ナルヲ數ヘテ其鄰人  
 ニ向テ我今コソ斯寶ケレ頃テ大キニ富榮ヘルト云ヘリ

○己カ借與ヘズ又其借タル人ヲモ不知シテ何處ヨリ其  
 金ヲ得テ富ンヤ愚ナリト云ヘシ。○列子ノ意ハ本言ニ  
 シテ虛名ハ無實ト云フヲ  
 示サンガ為ノ諭ナリ

同篇ニ載ス揚朱ガ弟ヲ揚布ト云或時揚布素衣ヲ衣テ外ニ  
 出タリ俄ニ大ニ雨降ニ依テ素衣ヲ解テ緇衣ヲ著更テ家  
 ニ反レリ其家ノ狗揚布ナリト不知シテ頻ニ吠タリ揚布  
 怒テ狗ヲ搏ントス揚朱此ヲ見テ搏一ナカレト制シテ予  
 モ亦如此ナラン若汝カ狗白クシテ外ニ出テ黒クナリ家  
 ニ歸來ラバ我狗ナラスト怪ムマジキヤト云此又寓言  
 ナリ世人ハ万物咸一理ナルヲ不知唯外所見ノ異ナル  
 ニ就テ種々ノ差別智ヲ發シ却テ物ニ變動セララル、一ヲ  
 戒ン為ノ  
 諭ナリ

十二國春秋ニ載ス周代末戰國ノ時齊威王ニ事ヘテ國ノ宰  
 相タリシ鄒忌ト云者ハ身長八尺餘形肥テ美麗ナル人也

訓蒙要言故事

卷十

三十二

或時威王ノ朝ニ出仕スルトテ衣冠裝束嚴ニ飾テ鏡ノ照  
ニ顔貌ヲ移シ熱窺ヒ視テ我心ナガラ儲モ慧生資ナリト  
自矜シテ己ガ妻ニ對テ我ト城北ノ徐公ト比ベテ孰カ美  
勝レリト云其妻聞テ君コソ勝レテ美ナリト云彼徐公ハ  
齊ノ國中ニ無比美男ナレバ鄒忌モ妻ノ言ヲ不肯復妾ニ  
如此云テ問ヘバ妾モ亦君コソ美ナレト云時シモ他所ヨ  
リ來ル客アリ此ニ問ヘ亦徐公ガ美ハ君ニ不及ト云儲  
ハ三人ノ言齊ヒタル上ハ我が美ニ超ル者ナシト思フ處  
ニ徐公來レリ鄒忌熟視テ我形ノ美ハ徐公ニ及フニア  
ラザルヲ知テ思慮ヲナシ我妻ノ我ヲ徐公ヨリ美ナリ  
トスルハ此我ニ阿私スルヲアレバナリ妾ガ我ヲ美トス  
ルハ我ニ畏レ從フヨリ云ナリ容ノ我ヲ美トスルハ彼我  
威勢ニ服テ求ムル所アルガ故ナリト云テ威王ノ朝ニ  
入テ伴ノ様子ヲ語り甚實ニ徐公ニ及バサレト或ハ阿  
私スルガ故又畏レ從フヨリシ或ハ媚テ求ムル志アルヨ  
リシテ却テ我ヲ勝レリト言ハ今君ノ身ノ上トテモ

復如此齊國ノ地千里ヲ保チ玉テ富貴廣大ナリ左右  
ニ近ヅク宮女王ニ私シ阿子ヲザル者一人モナシ朝廷  
ノ臣誰カ王ヲ畏レザル者アランヤ四方境地ノ内何カ  
王ニ求メテ媚ザル者アランヤ然レバ王ノ為ニ德ヲ蔽  
フ者甚多敬玉ハザラント云威王此言ニ感ジテ群臣吏官  
下万民ニ至ルマデ能面ニ我過ヲ刺ル者ハ最上ノ恩賞ヲ  
與ヘント下  
知シ玉フ

以見  
取人

事文類聚後集卷十八ニ載ス北朝後魏ノ朝ニ事ル楊愔ト云  
者人ノ材智ヲ選テ朝廷ニ舉薦ムルヲ掌レリ大抵其人  
品ヲ目利スルニ狀貌ノ勝レタルヲ善トス時久此ヲ諂テ  
今ノ尚書ノ官ノ擢人ヲ選舉ルヲ典トスルハ貪欲深  
キ者ノ瓜ヲ買ニ其實ノ味ヲ不顧惟其大ナルヲ取ルガ如ト  
云ヘリ凡此役ニ居ル人ハ深ク察シ審ニ揀マズンバアル  
ベカラズ其人ヲ舉テハ上ハ君ノ為下ハ國民ノ為治國ノ  
要ノ資トス器ニ不任者ヲ可取ラズ若其狀貌ニ就



(七)

テ人材ヲ定メントナラバ聖人モ濫臺滅明ガ狀ノ惡キヲ以テ材薄シトシ宰我が言舌勝レタルヲ以テ能クノ失アリ況ヤ聖人不及人可忍下ニアラズ

弗取  
受答

(八)

前漢書卷四十五列傳十五蕭通傳云通曰蓋聞天與弗取反受其咎時至弗行反受其殃ト云フアリ漢書ニテハ韓信ガ權強ク勢盛シナル故ニ秦ノ天下崩レ四海騷動ノ時蕭通カ勸テ高祖ノ手下ニ從フヲ離レ早ク天下ヲ奪セシ爲ニ云ヘル詞ナリ天與トハ我取ント欲スル心ナケレ凡自然ノ理ニテ得ル様ニナリ來ルヲ云此ヲ不取ハ反テ天ノ咎ヲ得ルナリ其時節到來シテ其事ヲ不行ハ却テ殃ヲ受ル者ナリ然レ凡此ニハ能思慮アルベキナリ大抵庸常ノ人ハ私ノ意ヲ用ヒ事ヲ企テ、少シ其效見ユレバ早天與ト心得時至ルゾト思ヒテ人爲ノ私ニ陷リ却テ罪ヲ天ニ得ル者多シ

訓蒙要言故事卷之十終

堀川通本國寺前町

小佐治半右衛門

版行

元祿第七<sup>甲</sup>戌稔三月吉旦

中村七郎右衛門

燒失

上村八郎右衛門

明治十六年九月十三日

御届

定價金壹円五十錢

今 十七年四月

刻成

滋賀縣下平民

校正者 赤松 皆恩

近江國蒲生郡千僧供村三拾五番戶  
易行寺住職

京都府平民

京都書林

出版人 永田調兵衛

下京區第三組花屋町油小路東入五番戶

183  
5  
150

